

神奈川工科大学広報

KANAGAWA  
INSTITUTE  
OF  
TECHNOLOGY

# Kait

No.182

## 専門力を持つ グローバル人材を育成

〈特集〉  
キャンパス情報  
本学の学生サポート

学科TOPICS  
office information

# 専門力を持つ グローバル人材を育成



情報通信技術や交通手段の急速な進展によって、

人・もの・情報が地球規模で素早く行き来する「グローバル社会」が到来しました。

こうした状況下、各大学では「どのような方針でグローバル化に対応していくか」が重要な課題になっています。

本学においても、学生の多数が就職する企業が海外に拠点を持ってグローバルに事業を展開していることもあって、

2014年度に小宮学長のもとに「グローバル推進連絡会議」を発足。

グローバル化に対する本学の方針はもちろん、取り組むべき課題についても検討を重ねてきました。

今回はその中から「グローバルな力を持つ人材の育成」「国際的知名度向上」について取り上げます。

## グローバルな力を持つ人材の育成

### 英語の運用力アップに貢献。 「イングリッシュラウンジ」をオープン!

現在、社会に出ると仕事は同じ業種の人たちと一つの専門分野の知識をやり取りするのではなく、さまざまな分野の異業種の人たちとの交流はもちろん、異文化の人たちとも交流しなければならないのが実態です。つまり、グローバルな力を持つ人材が求められているのが実情です。

このようなグローバルな力を持つ人材の『力』とは何でしょう? まずは何を置いても「世界の共通語」=「英語力」であることは間違いありません。それも学問としての知識ではなく「必要な場面で相手の考えを十分理解し、こちらの考えを広く深く理解してもらうための英語の『運用力』、つまりコミュニケーションツールとしての英語力なのです。」国際センターの所長を務める田中博教授(情報学部情報工学科)は、「こうした運用力を養うには何が必要だと思いますか?」それはスポーツや楽器の上達と同じで練習だと強調します。「スポーツや楽器の上達のためには、どのようなことを行いますか? 皆さんがこれまで体験してきたように「1に練習、2に練習、3、4がなく5に練習」ではないでしょうか。英語の運用力も同じです。知識として頭で理解していても、運用できる環境で実際に運用しないと決して上達しません。」(田中博教授)

その環境を与えてくれる施設が「イングリッシュラウンジ」なのです。開設の狙いは、「学生が英語に慣れ親しみながら、グローバル化する世の中に対応していく能力の育成」です。今年5月に幾徳会館1階、紀伊国屋書店・売店の横にオープンしました。開いているのは月曜日から金曜日までの1限から5限まで。現在は、水曜日と金曜日の1限から3限に、ネイティブの講師が待機していて、英会話の目的別・実践レッスンも行っています。さらに今後、毎日常駐する方向で進めています。その他にも留学体験者との情報交換、英語によるゲームなど運用力アップに効果的なプログラムを多数用意していく予定です。例えば学生同士が英語を使って協力し合いながらもの作りをすることで、海外で仕事をしていく素養を身につけることができるプログラムも実施計画中です。



## 国際的知名度向上

### 国際的知名度向上にも力を。 協定校を活用して国際交流も

一方で神奈川工科大学は、国際的知名度アップにも力を入れています。

その重要なプログラムが協定校の増加です。昨年度に新たに6大学と協定を結び、合計で16か国、30大学と協定を



結んでいます。内訳は東南アジア:7大学、東アジア:6大学、南アジア:2大学、北米:4大学、欧州:7大学、アフリカ:4大学。協定校との交流は本学の国際的知名度アップだけでなく、英語の運用力向上にもつながると田中教授はいいます。「協定校から交換留学生や短期の研修生を受け入れるなど実質的な交流を行うことで、例えば学内に居ながらに彼らからグローバルな刺激を受けますし、彼らと交流するためにはどうしても英語を使わざるを得ませんから、英語の運用力アップにもつながるのです。」

実際に昨年6月~8月に情報学部の3研究室で、「タイの東大」ともいわれるチュラロンコーン大学の学部生6名を短期研修生として受け入れたが、研究はもちろんのこと英語の運用力アップにも貢献したといえます。結果的に、彼らだけではなく、研究室に所属する本学学生にも好影響をもたらしたこともあってこの短期研修生受け入れについても今後拡大していく方針です。

「今後もイングリッシュラウンジのプログラムの充実、英語系基礎科目や英会話の授業、TOEICの受検者増や得点力アップのための演習授業の充実など、グローバル人材の育成や国際的な知名度アップに有効なプログラムを開発していくつもりです。」(田中博教授)

# 充実した「海外研修」積極的に活用して自分磨きを!

神奈川工科大学は理工系大学として海外研修が充実しているのが特徴です。全てのプログラムが授業科目として位置付けられており、夏休みにニュージーランドやマレーシアを対象に実施される「夏季研修」(異文化体験)、春休みにはアメリカアトールや台湾、イギリス、シンガポールを対象に実施される「春季研修」(語学研修、専門研修)、3年次にアメリカや台湾を対象に休学することなく半年間留学できる「3年次半年留学」などがあります。

こうしたさまざまなプログラムを実際に活用した学生の意識は、Before→Afterで大きく変わります。海外研修プログラムや実際に利用する学生たちを日々支援している、学生支援本部国際課海外プログラム主任の

真木聡美さんは「例えば留学に伴う学生の経済的負担にも最大限配慮していますし、行く前と行った後では人間的に一回りも二回りも確実に大きくなります。自分を向上させるために常に『何かないかな?』とアンテナを張り巡らし、有用な情報は確実にキャッチし活用する…。そのような貪欲さも必要です。充実したプログラムばかりなのでぜひ活用して欲しいですね。」と呼びかけます。

本学では、このような施策を学生の資質とその潜在能力を活かして確実に実行し、大学としてグローバル化の時代に向けた展開をさらに進めて行きたいと考えています。



## 多様な視点で異文化への理解を「国際センター」

学生の皆さんは幾徳会館内にある「国際センター」を知っていますか? その名の通り、各種国際プログラムや海外研修・留学制度の運営と活用、現在70名を超える海外からの留学生の受け入れを推進・支援をしている組織で、いわば、神奈川工科大学の国際戦略の「最前線基地」としての役割を担っています。「つまり、海外に興味を持って留学したいという日本人学生のために英語など言葉を研修する場を設けたり、本学に留学を希望する海外からの留学生のお世話をしたり、海外へ、海外から……。OUTとINに関わるほとんどのサポートを行っています。」(学生支援本部国際課・永来慎一室長)

なかでも、今、最も力を入れていることは、日本人学生に海外への興味を持ってもらうこと。「そのためにはどうしたらよいのか? 常に考え続けています。」と永来室長。なぜならば「海外留学を経験した日本人学生は、確実に遅くなって帰ってくるのを、目の当たりにしているからです。」と強調します。

そのため、幾徳会館内にある国際交流の場としての「国際センター」を積極的に活用して欲しいと望んでいます。「ここにあるラウンジでは外国人留学生と日本人学生が、思い思いにディスカッションをしたり、勉強をしたり、雑誌や海外情報誌を読んだり。国際交流をしながら自由に過ごすことができます」。また、国際センターが支援する日本人学生と海外からの留学生の交流の場「インターナショナル・クラブ」では、年2回の小旅行やバーベキューパーティなども企画。

国際センターは決して特別な学生のための場所ではありません。日本人学生と留学生の皆さん一人ひとりの可能性と未来を拓く場所でもあるのです。



ENGLISH LOUNGE

### イングリッシュ ラウンジ 利用について

英語に親しみながら  
英会話の力をつけてみませんか?

場 所: 幾徳会館1階  
 開室時間: 月曜日～金曜日 1限～5限  
 (木曜日は3限のみ閉室)  
 水曜日・金曜日の1限～3限は  
 ネイティブの先生が待機しています。

- ◆ 出入りは自由です。
- ◆ 今後、新しい企画を増やしていく予定です。
- ◆ 好きな時間に英語でコミュニケーションしてみよう!

## 学生同士が支え合い助け合う

# ピア・サポート「KAITpia」

**KAIT pia**  
KAIT peer support center

本学の学生に向けてキャンパスライフの支援を行っているピア・サポート「KAITpia」を知っていますか？

「大学での勉強方法って?」「時間の有効活用はどうすればいいですか?」といった学業のアドバイスから、「学内の施設で場所がわからない」「どんなサークルがあるの?」といった相談にのるなどさまざまな活動をしている「KAITpia」。昨年5月に開設され、今年の4月現在、120名以上の学生たちが活動メンバーとして参加。情報学部棟1階PCロッカー奥に「KAITpia」専用の部屋があり、新入生はもちろん、すべての神奈川工科大学の学生が一緒に支え合える場を準備しています。

### 学生生活をトータルに 支援することを目指し活動中!

「KAITpia」のモットーは「KAITの学生なら当たり前のように、誰でも支え合い助け合う」——。そんな雰囲気を大切にしています。

「KAITpia」の由来には、助け合い=「peer」、理想郷=「Utopia (ユートピア)」が意識されています。

活動領域として「タテのつながり」(学生担任\*など)、「ヨコのつながり」(留学生補助など)、「学びの場」(ピアカフェ、講習会開催、支援センター運営補助など)、「新しい刺激」(自主講座「学びま専科」「習いま専科」など)と幅広く行われています。

\*学生担任は、現在一部の学科でのみ行われています。



活動についてミーティングを何度も行います。



昨年の夏季休暇には講座を行いました。

### 学び場、語り場としての 「ピアカフェ」をオープン!

気軽に語ったり、学んだりするcafeのような場として、学生のさまざまな相談に応じるために「pia cafe」を開いています。相談のある学生は、KAITpiaの部屋を訪れています。今年度は5月現在で、85名が訪れました。

「オープンしているのは、毎週月・木・金の1限と5限。新学期ということで沢山の新生が来てくれました。履修相談や学習全般の相談が多かったです。」(藤田晴香さん 応用バイオ科学部栄養生命科学科4年)



### そしてさらに— ~充実したサポート体制を目指して~

「KAITpia」の活動メンバーの学生たちは、学生を支援し合う中で実感していることがあるといいます。

「この活動を通じて、常に『相手が今、何をしてほしいのか?』を考えるようになりました。また、いろいろな学科の学生がいるので、視野=世界が広がったと実感しています。」と藤田さん。

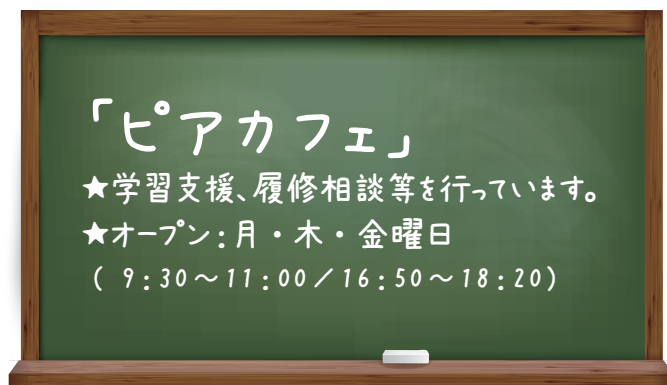
大学生活では部活やサークル活動に参加していると、タテのつながりがあって先輩から必要な情報が得られるのが一般的。しかしそうでない学生にとっては情報が得られにくいのが実情です。

「ですからもっとたくさんのKAIT生にここを利用して欲しい!私自身も、活動メンバーとして多くの“刺激”を受け、支えられています。」(坂本憲理さん 情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科2年)

「今後、相談内容によっては、必要となればさまざまな関連団体や地域の団体などとの連携も視野に入れ、広く、そしてより深いサポート体制にしていきたいと考えています。」(吉原一樹さん 工学部電気電子情報工学科3年) 今回お話を伺った藤田さん、吉原さん、坂本さんは「まずは一度覗いてみてほしい。」と呼びかけています。



色々なことを一緒に考えていきましょう!



# 神奈川工科大学附属図書館

24万冊の蔵書がある図書館。グループで利用できるActive Learning Roomなどのほか、約630席の閲覧席を完備。DVD鑑賞用個別ブースやブラウジングコーナーなどもあり、多くの学生が利用しています。世界中の科学技術分野に関連した文献を検索できるシステムを導入しており、研究や論文作成に役立ちます。



## 読書だけではない魅力がいっぱい! もっと図書館を活用しよう!

図書館は“静かに読書をする”だけの場所ではありません。上手に活用するために、図書館スタッフが授業科目「スタディスキル」の1コマの中で、図書館活用法をレクチャー。毎年1,000名を超える学生が受講しています。さらに「図書館講座」を実施。図書館のデータベースを活用して資料を見つけるテクニックを、パソコンを使った実習で具体的に紹介しています。

### 館内施設



#### ラーニングcommons

1階は「学習に必要な情報を得て、支援を受けられる“場”」というラーニングcommonsの考え方を取り入れたフロアです。複数人で使える可動式のテーブルでは、ディスカッションも可能。無線LANを設置しているので、私物のノートパソコンやタブレット端末を持ち込んで、大学で契約している学術データベースや電子書籍の閲覧もできます。また映像教材や映画を鑑賞できる視聴ブース(個人用10席・グループ用2か所)も用意しています。



#### Active Learning Room

プレゼンテーションの練習やゼミの輪講、卒業研究の発表準備、サークル活動のミーティングなど、主体的な学習ができるスペースです。Room1からRoom3には、電子黒板BIGPADと壁一面のホワイトボードがあり、電子的な記録と手書きを合わせた柔軟な使い方ができます。Room4にはディスカッションテーブルと呼ばれる最新のIT機器を設置。これは机全体がタッチスクリーンになっており、タブレット端末と連携してデータを表示できるので、直観的なプレゼンテーションや打ち合わせに活用されています。4室合わせて年間約1,000件以上の利用があります。



#### ブラウジングエリア

1階右手のブラウジングエリアには、新聞と雑誌が並んでいます。新聞は全国紙のほか、地方紙も含め約30紙を取り揃えています。学術誌だけでなく、ファッション誌をはじめとした一般雑誌の種類も豊富。このほか4,000タイトルを越える電子ジャーナルを用意しています。



#### 授業参考図書室

授業参考図書室(Reference Learning Room)には、シラバスに掲載された教科書や授業参考図書を配置しています。授業参考図書には学科名が色分けされたシールが付与されています。閲覧席もあり、その場で学習することも可能です。

## 研究の文献を探す “学術情報”につながる 図書館Webサイト



### ～まずは基本～OPAC検索窓

本学で所蔵・契約の書籍・雑誌・電子書籍・電子ジャーナル・研究紀要は、全てこの窓から検索できます。



### ～世界を“発見”～WorldCat Discovery Services

世界中の論文・書籍・研究紀要などの学術情報を、紙・電子など媒体を問わず一括で検索できます。本学に所蔵があるものや、利用可能なものが上位に表示され、オンラインで閲覧できるものにはリンクが付与されます。自ら“発見”を可能にするツールです。



その他、卒業論文や研究に必要な、最新の論文を探すデータベースも充実しています。(一部抜粋)

#### [Web of Science]

ノーベル賞予測にも使われる世界標準の学術文献・引用検索データベースです。被引用数順(引用数の多い順)で論文を探すことができます。

#### [JDreamIII]

国内標準ツールです。世界の文献が日本語で検索でき、日本語で抄録(要約)を読むことができます。

#### [メディカルオンライン]

栄養・看護医療分野の業界標準データベースです。国内で刊行される同分野の雑誌をオンラインで検索、閲覧することができます。(電子書籍もあり)

日本語	CiNii 論文検索・学外可	日本語	JDreamIII 論文検索・学内限定	日本語	化学書資料館 化学書検索・学内限定	日本語	JapanKnowledge 図書/学外検索・学内限定
英語	Web of Science 論文検索・学内限定	英語	SciFinder Web 論文/学外検索・学内限定	英語	EB 電子書籍 学内限定(一部学外可)	英語	EJ 電子ジャーナル 学内限定(一部学外可)
英語	生命科学・医療看護学関連データベース ONALHL 医中誌/Medical Online/PubMed_他DB・学内限定	英語	学術情報リポトリ 学外可/一般公開	英語	新聞/雑誌を読む 日経/朝日/読売他・学内限定		

# 本学の学生サポート

学生が充実した学生生活を送るために、神奈川工科大学ではさまざまなサポートがあります。

## 学生課 学生生活を支え、明日へと導く

### <学生相談室>

大学時代は、勉強や研究をするだけではありません。友人との関わり、クラブ・サークル活動、アルバイトなど、社会に出ていく前の大切な練習期間です。それと同時に自分自身のことを見直したり、将来の事を考えるなど、心が揺れ動く時期でもあります。学生の皆さんのそのような時期をサポートするために、「学生相談室」を設置しています。



#### ◆相談内容◆

人間関係、身体や気持ち、学業について、進路について

#### ◆開室時間・連絡先◆

月曜～土曜(9:00～17:00) \*受付は16:30まで

電話:046-291-3038 Eメール:sodan@kait.jp (返信には数日かかる場合があります。)

#### ◆カウンセラー◆

臨床心理士4名/メンタルヘルス・アドバイザー1名(精神保健指定医\*水曜日入室)

### <健康管理室>

病気やケガの応急処置を行い、必要な場合には、専門の病院や近隣の診療所などの医療機関を紹介しています。その他、健康や医療に関することなどの相談を受け付けています。



#### ◆開室時間・連絡先◆

月曜～金曜(9:00～17:00) (9:00～11:40 / 12:30～17:00)

電話:046-291-3037 Eメール:kenkou@kait.jp

#### ◆看護師・学校医◆

看護師2名(交代制)/医師 木曜日13:30～15:30に入室。

(学校医\*とうめい厚木クリニック)

### 「奨学金」について

経済的理由により修学困難になった学生に対しては、学資を貸与する「奨学金」があります。

#### ◆奨学金の種類◆

#### 「日本学生支援機構奨学金」

第1種(無利子)・第2種(有利子)の2種類があります。

第1種貸与額:自宅通学者54,000円、自宅外通学者64,000円、または3万円を選択  
第2種貸与額:3万円、5万円、8万円、10万円、12万円の中から選択

\*春の採用については、終了しましたが追加募集がある場合は、学生課の掲示板でお知らせをしています。

#### 「幾徳学園奨学金」

貸与額:34,000円(募集人数30名\*1年生対象)採用決定は、6月～7月。

出願者に対して、選考のための面接を行います。



### 父母説明会・個別相談(本学)の開催について

平成28年度父母説明会・個別相談(本学)は、次の日程で開催を予定しております。クラス担任との個別相談会の時間も設けております。尚、案内状の発送は8月下旬を予定しております。

【父母説明会・個別相談】9月24日(土) 神奈川工科大学

(同案内につきましては、本誌P.21にも掲載しています。)

### モバイル「KAIT安否情報サイト」

このところ頻発している自然災害。「果たして家族は大丈夫だろうか?」。募る心配、不安……。にもかかわらず安否の確認には数日間を要しました。神奈川工科大学では、もし大震災に見舞われても素早く・正確・確実に情報を伝える「KAIT安否情報サイト」があります。事前登録をしておくだけで、災害の発生後から1週間、指定時間に学生本人が登録した安否情報を保護者にメールで配信します。地震だけでなく台風などの自然災害にも対応しています。また、家族10人まで、学生・教職員の家族専用ページにアクセスして安否情報の登録・確認、メンバー情報の管理などが可能な「きずなサイト」も利用することができます。

#### 👍 POINT

- ◆停電になっても大丈夫!災害発生時には、遠隔地にシステムを切替え
- ◆学生の安否情報を保護者へメールで送信
- ◆モバイル学生証だからこそできる!正確で頼れる緊急連絡ルートを利用

### 崩れがちな栄養バランスも安くて豊富な学食で安心です。

学内には、4つの学生食堂を設置していて、日替わり定食や、カレー、どんぶり、そばなどを嬉しい価格とボリュームで提供しています。朝から夜まで提供している食堂や女子学生に人気のカフェレストランなど何れも人気メニューを揃えて、学生の学生生活を支えています。



#### 👍 POINT

「生活の乱れは食生活の乱れから」朝食欠食の習慣化に注意しましょう。また、学生食堂ではカロリーとアレルギー表示も行っています。

希望の進路へ着実に進んでいけるよう、学生のキャリア形成をサポートするのがキャリア就職課です。キャリア就職課職員、キャリアアドバイザー、学科就職事務室は、日々就職に関する質問や、相談に対応しています。

2016年3月卒業生の本学の就職率は96.3%、また進路決定率（卒業生全員に対する就職決定および進学決定）は90.6%でした。

現在、2017年春卒業生の就職活動が本格化しており、報道されている通り、昨年度に続き、今年の採用スケジュールも前年から変更され、選考開始時期は2ヶ月間前倒しの6月スタートとなりました。しかしながら、多くの企業では6月よりも以前に選考が開始されている状況であり、学生一人ひとりの相談に対応しながら就職支援を行っております。

## 本学主催の「合同企業説明会」を開催

本学卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで優良企業が参加する「合同企業説明会」を開催しています。2015年度の説明会には、延べ1,244社の企業の方に参加いただきました。

『質』『量』ともに充実した説明会で、結果として、昨年度は、全内定者の46.5%の学生が合同企業説明会参加企業に就職が決定しました。



### POINT 『合同企業説明会』の実績

『質』: 参加企業、中身が充実している

神奈川工科大学から採用したい、と意欲の高い企業に参加をいただいています。

『量』: 全国有数の参加企業数 2015年度 1,244社

『結果』: 全内定者からの決定率 2015年度 46.5%



「KAIT Career」就職・キャリア総合サイトでは、合同企業説明会参加企業について、希望する業種や職種、勤務地などから検索し、事前に調べることができます。



## 就活生は保護者に社会人としてのアドバイスを求めています

### <本学主催の「就活セミナー」に参加しよう!>

採用活動変更に伴って学生とご家族にご理解いただきたいことは、変更後のスケジュールをその通りに進めている企業は少数であるということ。各メディアの報道にもあるとおり、7割以上が5月までに選考を始めています。キャリア就職課では、このような状況を把握し、学生への就職支援に盛り込んでおりますので、3年生、4年生向けの就職支援セミナーには必ず参加していただきますよう、保護者の皆様からお声掛けをよろしくお願い申し上げます。

また、3年生は、インターンシップ情報が6月から就職情報ナビサイト等で公開されていますので、具体的に企業研究を進めていくことをお勧めします。

### <満足のいく就職活動に欠かせない点>

就職活動で大切なのは、自分自身がその会社に入って何をやりたいかということです。「どこ」の企業に入るかという企業名ばかりを優先させず、「何を」やりたいのかで動いていただきたいと思います。その点をしっかり自問自答して、企業を選択していくことをお勧めします。

### <子供の主体性を大切にしながら親子のコミュニケーションをしっかりと>

親の考え方は、お子さんの就職活動がスタートする前に、きちんと伝えましょう。進路を決定するときに、親の社会人としてのアドバイスは欠かせません。就職活動時には、特に親子の意思疎通を心がけてください。そして、最終的な判断は本人に任せ、ご家族は後方支援に徹していただくことがベターだと思います。ご不明な点はキャリア就職課にご相談ください。学生には「誰かと必ず相談しながら就活をするように」と、お伝えいただきたいです。親子で就活モードに入り、満足のいく就職活動ができるように願っています。

## 教務課 授業・履修～学びのサポート

人生において非常に貴重で濃密な時間、それは間違いなく大学の4年間です。高校までとは大きく異なり、「主体的な学び」=自分で科目を選択し、時間割を組み立てて1週間のスケジュールをつくり、サークルやアルバイト、ボランティアや海外留学など自分の判断で計画することができます。授業形態はまさにさまざま。高校時代のように先生の話聞く講義形式、自らが体験する実習・実験、さらには少人数で行うゼミナール(演習)という大学ならではの授業もあります。「学びたいことを思いきり学べる」これが大学で学ぶことの何よりの魅力ではないでしょうか。ただし、良いことづくめではありません。卒業に必要な単位数が決められていて、3年次終了時点で卒業研究着手要件を充足していない場合は残念ながら留年が決まってしまう。そのため、各学年での修得目標単位数を1年次40単位、2年次40単位、3年次30~40単位に設定し指導しています。さらに、事前・事後学習の時間を確保するために「CAP制度」を導入し、履修単位数の上限を設けて単位の実質化も図っています。



また、保護者の方は「保護者ポータルサイト」から学生の掲示板(連絡内容)・授業時間割・出席情報・出席率・試験日程情報を把握ことができ、学生・保護者・大学が三位一体で学修状況をリアルタイムで共有しています。

(学生支援本部教務課 平野多嘉弘教務担当部長)

## 新入生 フレッシュャーズ・キャンプを実施

「フレッシュャーズキャンプ(FC)」は、全部で4つのグループに分かれていますが、どこに行くかは入学するまでわかりません。2組は、近隣の温泉地(七沢温泉)にある七沢荘に行きました。FCの一番の目的は、大学で良いスタートを切ることです。そのためには、不安を取り除くことが一番でしょう。そこで、FCでは「仲間を作る」こと、「授業計画を立てる」ことに主眼を置いています。前者については、多人数で1つの部屋に寝泊まりすること、全員でゲームをすることで雰囲気を作っています。ゲームではビンゴを行いました。景品は大学生生活に欠かせないものが多数用意されていました。皆、楽しんでもらえたでしょうか?後者については、先輩である4年生や大学院生が新入生の質問に答える相談室を開きました。そして最後は、七沢荘の露天風呂に浸かって、リフレッシュしてもらいました。

(文責:機械工学科准教授/今井 健一郎)



上級生への相談や懇親会が行われました。



3組は昼過ぎに大学を出発し、鎌倉市でシステムキッチンなどの製作工程を見学しました。工場見学は、モノづくりの現場を知る良い機会です。また、工場で稼働している多くの産業機械を見ることで、機械工学の守備範囲の広さを感じてもらうこともできます。夜は湯河原温泉のホテルに宿泊しました。夕食後は、懇親会、クラス懇談会、基礎教育支援センター説明会、よろず相談を実施しました。最近では、科目履修の仕方が複雑になり、わかりにくくなっています。そのため、21時過ぎからのよろず相談は、実質、履修相談となっています。自由参加としていますが、ほとんどの学生が23時の終了時まで熱心に履修申請の準備をしていました。翌日は、厚木市内にある神奈川県総合防災センターで、各種の体験と防災ビデオの視聴を行いました。災害はいつ起きるかわかりません。親元を離れて一人暮らしになった学生も多数いることから、改めて防災に対する意識を高めてもらいました。

(文責:機械工学科助手/高橋 肇)



科目履修ガイダンスの様子



防災センターでの体験の様子

新入生が大学生活にスムーズに入っていけるようにオリエンテーションの最終に実施しているのがフレッシュャーズ・キャンプです。今年度は4月6日~7日の2日間行われました。

今年の4組のFCは、神奈川県箱根町で一泊二日で行われました。初日の昼頃、大学を貸し切りバスで出発し、午後にはキンディステイラー富士御殿場蒸留所に到着。国内唯一のモルトとグリーンウイスキーを同じ工場で製造しているウイスキー工場の見学を行いました。見学後は、バスで宿泊先である箱根のホテルに向かい、夕方から夕食前にかけてクラス担任との懇談会や基礎教育支援センターの説明会などが行われました。夕食後は、各アドバイザーの先生ごとに十数人ずつのグループに分かれて、自己紹介や大学での過ごし方や履修登録の仕方などの説明・相談会のため、例年になく日付が変わる頃まで盛り上がりました。二日目は、あいにくの雨だったため、声ノ湖畔散策を「生命の星地球博物館」見学に変更して、昼食を小田原のかまぼこ屋さんでいただき、大学に戻りました。新入生として良いスタートが切れる充実した二日間になったようでした。

(文責:機械工学科准教授/矢田 直之)



履修相談と博物館見学の様子



航空宇宙専攻でも、例年同様、筑波山温泉に宿泊し、JAL機体整備工場、高エネルギー加速器研究機構、JAXA筑波宇宙センターの見学を行いました。尚、本キャンプの趣旨としては、上記航空宇宙関連施設の見学を通して航空宇宙専攻において学ぶ意識を啓発することや、科目履修を含む大学生活全般のガイダンス等々ありますが、何よりも、今後の大学生活を共に過ごす学生同士の懇親を深めることにあります。特に、本専攻では定員が少ない(30名)こともあり、今年も、一泊二日の間に学生達は、かなりのまとまりを見せ始めました。このため、フレッシュャーズ・キャンプ終了直後の授業において確認しても、「友達作り」の目的は達成したとのことでした。

また、宿泊先では、夕食後に2時間半を超える履修ガイダンスも行いましたが、スマホ等を操作するような事も無く、全員が熱心に自分の履修計画を立てていました。ぜひ、この気持ちを4年間持ち続けて欲しいです。

(文責:機械工学科准教授/中根 一朗)



JAL機体整備工場ハングア内での記念撮影



夕食後の履修ガイダンス

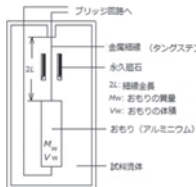
### 卒業研究生の活躍

## 振動細線密度計の開発

工業的に重要な作動流体の密度は、それ自身が重要な性質であるばかりでなく、エンタルピーやエントロピーなど、直接測定できない熱力学性質を状態式によって求めるための基礎的なデータです。この密度を測る方法には様々なものがありますが、ここでは、当研究室で開発中の金属細線の共振振動を利用して流体の密度を測定する「振動細線密度計」について紹介します。

振動細線密度計(図)は、試料流体中の「金属細線」とそれに吊るされた「おもり」から構成されています。金属細線は永久磁石の磁場の中に置かれます。さて、金属細線に交流電圧を加え、その振動数を変化させると、金属細線は共振振動を起こします。金属細線の共振振動数は、(試料流体の密度が大きくなる)→(おもりに作用する試料流体の浮力が増える)→(おもりを吊るした金属細線の張力が小さくなる)→(金属細線の固有振動数すなわち共振振動数が小さくなる)のように試料流体の密度によって変化します。これは、ちょうど、ギターで、弦の張りを弱めると低い音が出るようになるのと同じです。このように、試料流体の密度の変化を金属細線の共振振動数の変化として検出することによって、試料流体の密度を測定できます。本年度の卒業研究では、4年生の長谷川陽治さんと若林和希さんが、流体の密度を±0.1%の精度で測定できる振動細線密度計の実現を目指して開発研究に取り組んでいます。

(文責:機械工学科教授/高石 吉登)



振動細線密度計の構造

### 新任のご挨拶

機械工学科 准教授 林 直樹

4月より機械工学科に着任しました林直樹と申します。機械工学の基礎となる熱力学をはじめとした「熱」を扱う授業科目を担当します。「熱」や「エネルギー」は目に見えないものですので、なかなか直感的に理解するのが難しい分野ですが、わかりやすい講義を目指したいと思っています。

研究では燃焼を主として扱っていきます。ロケットや車などは主として燃料を燃焼させることで動力を得ています。一方で、地球温暖化の原因である二酸化炭素や大気汚染の原因物質であるPM2.5などを排出するという面もあります。そのため、燃焼現象を明らかにすることで、より地球環境に配慮した燃焼器の開発に貢献することを目指しています。

【専門】燃焼工学  
【担当授業科目】熱力学I、機械及び電気工学実験、機械工学プロジェクトII、卒業研究(燃焼工学特論(大学院))





# 電気電子情報工学科

## 新学期へのスタートダッシュ! 「電気電子入門講座」

電気電子情報工学科2016年度の新入生の内、希望者を対象として、3月28日から31日まで電気電子入門講座が開講されました。電気電子情報工学科の新入生には、工業高校で電気電子工学の基礎を学んできた学生と、普通高校出身で数学や英語の勉強には力を入れてきたが電気電子工学については大学に入ってから学ぶという学生がいます。

そこで工業高校出身者には電気電子工学と数学の関係をより深く学ぶことができる機会を提供し、普通高校出身者には基礎的な実験を通じて電気電子工学を身近に感じてもらおうが本講座です。さらに勉学以外にも、なるべく早く大学生活に慣れること、友人を作ることも目的としているため、講座終了後には簡単な懇親会を開催しました。本講座へ参加して、太陽光発電パネルの実験などを新入生同士で工夫しながら進めることにより、電気電子工学が面白いと感じたという学生が多かったようです。

(文責:電気電子情報工学科教授/小室 貴紀)



## 資格取得のサポート 「電験三種対策講座」を 新設します

電気設備工事関係の技術者育成を目的とした電気工事士対策講座は8年目を迎え、ここ数年では、第一種と第二種併せて毎年20名以上の合格者を出しています。2015年度は第一種が7名、第二種が14名合格しました。

電気工事士資格の上位には、第三種電気主任技術者(いわゆる電験三種)資格があります。この資格は工場やビルなどの高圧受配電設備の保安業務に必要となります。この資格を持っていると業界では高い評価を受けます。そこで、「電験三種対策講座」を2016年度から開設します。技術士や電験二種などの取得の難しい国家資格、また豊富な企業経験も持つ方を講師に招きます。講義内容は(1)理論(回路・電気計測など)、(2)電力(発電・変電・送電)、(3)機械(電気機器・照明など)、(4)法規(電気法規)の4科目について、計算問題を中心とし、問題の解き方について指導。資格取得者には単位が認定されます。

(文責:電気電子情報工学科教授/下川 博文)

### 電験三種資格支援講座 講師

安本浩二さん

現 職: 富士電機株式会社  
パワエリ機器事業本部課長  
筑波事業製造部電気主任技術者

学 位: 博士(工学)  
取得資格: 技術士(電気電子部門)  
第2種電気主任技術者  
第3種電気主任技術者  
エネルギー管理士(電気分野)  
1級電気工事施工管理技士  
1級管工事施工管理技士  
2級建築施工管理技士



## マイコン回路デザイン コンテスト2016開催! ～アイデアを活かしてユニークな作品を作ろう!～

家電製品から自動車まで、マイコン技術を用いた電子回路がその心臓部となり、電子マイコン技術なくしては暮らせない時代となっています。さらに皆さんのアイデアを活用することで、こんなモノがあれば便利だ、楽しくなりそうだ! など身近なところに無限のものづくりの可能性が秘められています。本コンテストは、実際にマイコンを中心とする電子回路技術へのチャレンジを目的としています。

<ビギナーズ部門発表日>

2016年9月11日(日)

<エキスパート部門発表日>

2016年11月19日(土)

主催:

神奈川工科大学 OBJECT 0 実行委員会

共催:

神奈川工科大学 電気電子情報工学科

\*コンテストの詳細などはホームページをご覧ください。

<http://www.kait-ele.jp/micon/2016/>



## 電気学会より4年生2名が 電気学術奨励賞を受賞

平成27年3月に本学科の中田悠太さんと森友紀子さんの2名が電気学会東京支部より電気学術奨励賞を受賞しました。日頃の研究活動、国内や海外での研究発表実績や学会への積極的な姿勢が評価されました。

受賞にあたり中田さんは「研究成果を論文にまとめ、パワーポイントで資料を作成したり、学会発表に向け一生懸命練習してきた甲斐がありました。この賞を励みに大学院でも頑張ります。」と今後の抱負を語っていました。

(文責:電気電子情報工学科教授/瑞慶覧 章朝)



受賞した中田さん

## 新入生の皆さん 入学おめでとうございます

応用化学科では、4月から68名の新生を迎え、新しい年度がスタートしました。新入生は、4月1日から大学へ通い、オリエンテーションやプレースメントテスト、入学式と授業が始まるまでに、多くのことを経験し、不安な面持ちがまだ表情に見てとれる中で、初めての大学での講義を受講します。そうした緊張を少しでも和らげようと本年度も、フレッシュキャンプが行われました。今年は、伊豆の伊東までバスで行ってきました。伊東のホテルで行われることは、履修コースを決めること、自分の時間割を作成すること、そしてもちろん友達作りです。

応用化学科では現在、医薬・生命科学を専門に学ぶ「医生命科学特別専攻」、専門的な技術士を育成する「総合化学エンジニアコース」、化学を幅広く学ぶ「化学応用コース」の1つの専攻および、2つのコースがあります。学びたい内容や身につけたい技術により、1年生はコースを選択する必要があります（※医生命科学特別専攻は入試で決定されています）。伊東でのキャンプでは、コースの選択に関して、特に「総合化学エンジニアコース」の説明を行い、それぞれのコースの概要が説明されました。医生命科学特別専攻へは1年生前期の成績によってはコース変更ができるので、その点も考慮したコース決定をする必要があります。キャンプが終わるまでには、1年生全員がコース決定できたようです。

大学に入ると、高校までと違って、個々に時間割が異なります。上述のコースによっても選択すべき科目が異なるため注意が必要です。また取得したい資格（学芸員や教員免許）については、さらに多くの専門的科目を履修しなければなりません。これまで与えられた時間割で過ごしてきた高校生活とは違い「自分で決める」作業が多くあります。どの授業を履修すればよいか、また修得単位数は大丈夫かなど、いろいろと頭を悩ませますが、キャンプでは各クラスに分かれてクラス担任の丁寧な指導の下、なんとか時間割を完成させることができました。

キャンプ2日目は学科の非常勤講師でもある山下智子先生を招いて、アイスブレイクを実施しました。アイスブレイクは、様々な体験を通じて、初めて会った人とでも仲良くなれるように構成されたエクササイズです。この体験により、体験前の知り合いから友達関係へと親近感が持てるようになります。教員も混じりながら、楽しい時間を過ごすことができました。キャンプ終了後、無事に大学へと戻りましたが、多くの友達ができたことと思います。

こうしたキャンプを通じて応用化学科の一員としての自覚や、今後の学生生活の礎を築いていきます。大変でしたが充実したオリエンテーション期間だったのではないでしょう。



参加者集合写真



コース説明



アイスブレイクでの友人作り



時間割作成の様子

### JABEE認定プログラムの修了生が社会でも活躍を期待されています

応用化学科の「総合化学エンジニアコース」は、技術者教育としてふさわしい教育を行っていることを、日本技術者教育認定機構（JABEE）により認定されています。そのため「総合化学エンジニアコース」の卒業生は卒業証書とは別に、コース修了認定証がJABEEから贈られます。本コース卒業生は、技術士の卵として、世界でも通用する修了証を手にするようになります。昨年度は15名の修了生を輩出することができました。修了生の進路は就職や大学院などさまざまですが、技術者教育の根幹である、「課題を見つけ解決していく能力」を十分に学んできた力を十二分に発揮していくことと期待しています。



JABEE修了証を授与された平成27年度卒業生

### 国際バイオテクノロジー展で発表しました

国際バイオテクノロジー展(5月11日～13日：東京ビッグサイト)は、バイオテクノロジーに関する新たな技術の紹介の展示会であり、出展者と来場者との間で技術相談や、新たな製品の開発のための提携など活発なやり取りが行われます。大学向けにはアカデミックブースがあり、企業とのタイアップや、技術移転など新たな技術の種を紹介するよい機会となります。「アカデミックフォーラム2016」に今年は、応用化学科から山口研究室、高村研究室の2つの研究室が、研究の紹介を行いました。山口研究室展示テーマ「ヒダントインを基本骨格とする生物活性を示す化合物の合成」では、様々な薬効が期待できる新規な化合物ライブラリーの紹介、高村研究室展示テーマ「PDTへの展開を目指したフラレン誘導体の構造と活性評価」からは、新たなナノマテリアル医薬品の紹介を行いました。企業の方も多くブースにお立ち寄りいただき、情報交換や、企業との共同研究などについて活発な議論がなされました。発表に参加した4年生の西澤慈さんから「この展示会では企業は自社の製品を魅力的に展示し、大学のブースでは、新たな技術開発につながる最新の研究成果が多くありました。企業や他大学のみなさんに研究室のポスター発表をしたり、様々なお話を伺う機会があり、刺激を受けました。中でも、一番印象に残っているのは慶應義塾大学の岡野教授や京都大学の高橋教授の「iPS細胞を用いた再生医学の最前線」というテーマの特別講演です。iPS細胞は山中教授がノーベル医学生理学賞を受賞されてから、とてもホットな話題で、多くの人が聴講していました。今後の技術開発が進む分野で成果を挙げ大勢に注目される機会が自分にもあれば、と感じました。」と感想を話しました。今後の研究活動にぜひ活かしてほしいと思います。



研究紹介を行った山口研究室の皆さん

## 臨床工学科フレッシュャーズ・ガイダンスを開催

今年度、47名の新入生を迎え、4月6日と7日の2日間、臨床工学科のフレッシュャーズ・ガイダンスが開催されました。

第1日目は、まず学科の教員と職員との紹介が行われました。臨床工学科は2つのクラスに分かれています。それぞれの担任から学生生活に関するアドバイスをいたしました。その後、グループワーク・レクリエーションがあり、学生相談室の先生のリードと大学院生のサポートで、いろいろなゲームをしながらお互いを知り、親交を深めました。午後は、基礎教育支援センターと附属図書館の紹介があり、大学での勉強や研究活動について貴重な話を伺いました。その後、学科教務委員よりこれからの勉学(履修)の計画に関する説明、インターネットで履修登録をする場合の注意点などについて説明がありました。高校の時と違い、自分で科目を選択し申請することに驚いたり、とまどったりした学生もいたようです。

ガイダンスの2日目は、「臨床工学ガイダンス」として、教員より臨床工学技士の仕事内容、医療人としてのマナー、資格試験に関する説明等があり、これからの学生生活の心構えを新たにしました。昼食は学生、教員全員揃っての会食でした。先輩のクラブ・サークル活動の説明等もあり、楽しい時間を過ごしました。午後は、パソコン設定が行

われました。無線LANの設定、履修登録作業の確認、メールのマナー講座の後、履修相談、よろず相談会が行われました。この2日間で、「明日の医療になろう人材」としての4年間のスタートが切られました。

ガイダンスにあたり、基礎教育支援センター、附属図書館、学生相談室の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

### 臨床工学科の近況報告

4月は授業の欠席も少なく、学生の皆さんは順調にスタートを切ったようです。6月には、1年生、2年生合同での懇親会を開催します。また11月の学園祭に向けての活動も始まっています。教員も含め学科全体として盛り上げていく計画です。

また、4月に熊本を中心とした地震があり、心配される日々が続いています。本学科の山家教授が、日本災害時透析医療協働支援チームの事務局長として、現地での医療支援に当たりました。

(文責:臨床工学科教授/松尾 崇)



ガイダンスの後、懇親会も開かれました。



## 臨床工学技士の業務紹介

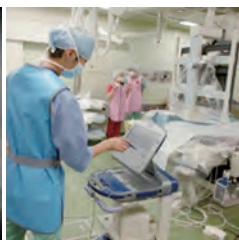
### ペースメーカー管理も 臨床工学技士のシゴト

工学部臨床工学科助教 渡邊 晃広

皆さんは、心臓が一生でどのくらい動いているかご存知ですか?平成26年簡易生命表の概況(厚生労働省)によると、日本人の平均寿命は男性で80.5歳、女性で86.8歳となっています。心臓は1分間におよそ70回拍動しますので、1日で約10万回、年間で3600万回、一生を80年とすればおよそ30億回も動き続けていることとなります。我々は、このように心臓が規則正しいリズムで動き、全身へ血液を送り続けてくれることで健康に生きていくことができます。しかし、何らかの原因で心臓が規則正しく動けなくなることがあり、これを不整脈といいます。脈が病的に早くなる状態を「頻脈」、遅くなる状態を「徐脈」といいます。特に、徐脈になると、全身へ血液が十分に送られなくなるので息苦しさやだるさを感じ、長時間続いた場合には心不全の症状が出たり、失神することもあります(最悪の場合はそのまま死亡する場合も)。こういった徐脈に対する有効な方法として、人工心臓ペースメーカーの植込みがあります。ペースメーカーは規則正しく動けなくなった心臓の機能を補い、必要に応じた脈拍数を維持する働きを持ちます(ペースをつくる=ペースメーカー)。ペースメーカーは心臓を電気刺激(ペースィング)して動かす植込み型医療機器ですので、十分な知識を持った臨床工学技士による操作・管理が重要となります。ペースメーカーに関連した臨床工学技士の業務範囲は広く、検査に始まり植込み手術時の臨床業務、患者さんの生活指導から外来での定期的なフォローアップなど多岐に渡るシゴトをこなしています。本学臨床工学科では2年次の医用治療機器学や治療機器学実習で、実際のペースメーカーやプログラムの操作・管理方法を学びます。



PM植込み患者のX線写真



PMプログラムの操作・管理  
(日本臨床工学技士会ホームページより)

## 第36回医療体育研究会/第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会/第17回合同大会の開催報告

第17回合同大会は、本学において2015年11月28日、29日の2日間で開催されました。両会は、有病者や障がい児・障がい者の体育・スポーツ等に関する理論と実践および科学的研究の進歩と発展を図ることを目的としています。

これまで各々が蓄積してきた有益なものを形(論文など)に起こしたいとの希望はあっても、そのノウハウを持っていない方々に対する「論文執筆のススメ」と題した教育講演や、「下肢障がい者用のチェアスキー開発の歴史」に関する特別講演、さらに、日本スポーツ振興センター所属のアスレティックトレーナーによる、オリンピック・パラリンピックのリオデジャネイロ大会ならびに東京大会に向けた、トップアスリートのコンディショニングに関する講演を企画しました。

一般発表は、全ての演題が口頭発表であり、韓国からの3演題を加えた計51演題となりました。運動指導などの現場における実践的かつ有用な報告が多く、会場内外で活発な討論や情報交換が行われました。

本大会では、臨床工学科やロボット・メカトロニクス学科の学生有志や教職員の方々、学外の方々にご多大なご協力を賜りました。この場をお借りして、深謝申し上げます。

(文責:臨床工学科教授/渡邊 紳一・第17回合同大会実行委員長)

## ドーピング防止教育の啓発活動で講演

4月10日に、大阪府立の東和薬品RAC TABドームにおいて、平成28年度全日本カデ柔道体重別選手権大会が開催されました。本大会は、次世代の柔道界を担う「カデ」世代(15~17歳)の競技力向上を目的に、(公財)全日本柔道連盟の強化委員会により選考された選手が集う大会です。本大会では、ドーピングの競技会検査が実施されることが公表されており、出場することで検査対象となることへの承諾をしたこととなります。

近年、若い世代の競技者もドーピング検査の対象者となる機会が増えていきます。全日本柔道連盟でも、心身ともに健全に育てて欲しいとの願いからアンチ・ドーピング部会を設置し、ドーピング防止教育の啓発活動を行っており、本学科から渡邊も所属しています。

この大会の前日、全国から召集された出場選手約170名を対象に、「運動・スポーツとアンチ・ドーピング」と題した講演を渡邊が担当し開催しました。多くの選手が検査について未経験であり、専門的な教育もほとんど受講したことがないことから、真剣に耳を傾けていたのが強く印象に残りました。クリーンな競技者として、東京五輪のメダリストを目指して頑張ってほしいです。

(文責:臨床工学科教授/渡邊 紳一)

# 自動車システム開発工学科

## EVエコランカープロジェクトが「ワールドエコムーブ(WEM)2016秋田大会燃料電池部門」に参戦し第三位に入賞!!

EVエコランカープロジェクトが、5月3日、4日に、秋田県大湯村ソーラースポーツラインで開催された「ワールドエコムーブ(WEM)2016秋田大会燃料電池部門」に参戦しました。

燃料電池部門は、与えられた水素120L(約10g)を使って、1周約6kmのコースを2時間走行して走行距離を競うエコランレースです。チームは4月30日～5月5日の日程で遠征を行い、事故や怪我もなく無事に戻りました。

冬と真夏を繰り返すような天候と、すさまじい突風の厳しい気候条件でしたが、出走できて、第三位に入賞しました。学生たちの頑張りを誇りに思います。OBも数名参加してくれました。応援して下さいました多くの方々に御礼を申し上げます。

今回の参戦は以下の目標を掲げて行いました。

1. 1年間でゼロから設計・製作を行う。
2. 製作もエコで行う。高価なインフォイルモータやモータコントローラは使用せず、安価な部品を用いた手作りとする。
3. 運搬もエコで行う。通常は高額な運送業者に依頼するが、今回は分解してチームメンバーが公共交通機関で運び、現地で組立・調整を行う。
4. そのために、分解・組立が容易な設計とする。

遠征は以下のような日程で行いました。

- 4/30: 移動日 / 5/1: 移動日、組立・調整 / 5/2: 組立・調整、コース試走  
5/3: 車検、公式練習走行(予選) / 5/4: 本選、表彰式、分解、移動日 / 5/5: 移動日

5月1日は、民宿のガレージをお借りして、車両の組立と調整を行いました。

5月2日、競技会場の走行コースで試走を行いました。最初は鉛蓄電池、続いて自前の水素吸蔵合金ポンプを用いました。5月3日、車検に臨みました。しかし審査員からブレーキの不調を指摘されてパニックとなりました。チーム全員が必死で努力しました。その結果、公式練習走行(予選)の3分前に車検合格となり、指定されたスタートグリッドへ急ぎました。公式練習走行(予選)は無事に走行できて、第三位でした。5月4日は、待ちに待った本選でした。本選日は、寒くて風も強かったため、燃料電池車には非常に辛い気象条件となりましたが、約11.4km走行できました。燃料電池車の開発は技術的に非常に難しいことを実感しました。

OBも数名参加してくれて、後輩に色々とお話をしてくれました。5年ぶりの参戦でしたが、第三位に入賞できました。

今回の我々のポリシー「分解して公共交通機関で運びました現地で組み立てる、高価な部品は使わない!」は非常に現地で評判となりました。来年は、今回わかった問題点を解決してさらに走行距離を伸ばしたいと思います。

今後も、さらに多くの学生たちが、チーム活動、設計、製作に邁進することを期待します。

皆様の声援に感謝申し上げます。

EVエコランカープロジェクト・ファカルティアドバイザー

自動車システム開発工学科 高橋良彦



民宿での組立作業



車検でのブレーキ調整作業



車検が終了し、スタートグリッドへ



本選でのグリッドイン



本選で走行中の車両



本選が終了。ゼッケンNoを路面に記入



遠征メンバーの記念撮影



表彰式

## ソーラーカー 芦ノ湖スカイライン走行プロジェクトに参加して

自動車システム開発工学科2年 隠明寺 直人

去る3月27日神奈川県箱根町において、「ソーラーカー 芦ノ湖スカイライン走行プロジェクト」が開催されました。神奈川県と東海大学との包括連携協定による「再生可能エネルギーの導入等の促進」の一環として、昨年日本一となった本学チームもお誘いいただきました。参加団体は他に、工学院大学、サレジオ工業高等専門学校、静岡ソーラーカークラブ、静岡工科大学、STEP江東の計7団体で、当日は芦ノ湖スカイラインを通行止めにして、レストハウス「フジビュー」から「三國峠」間を往復しました。

ソーラーカーからの視野は乗用車に比べてとても狭く、車体の先端や前輪の位置が把握しにくいだけでなく、下見に行ってみると、路上のすぐ脇には深い側溝やガードレールがあり、不安も多々ありました。学内で行った事前のテスト走行では、実際に走行する速度を体験し、パイロンスラロームをすることでソーラーカーの旋回性能の確認やブレーキのテストなどを繰り返し練習しました。車両の整備を施し、箱根を走行するための運転技術を習得することで、次第に自信を持つことができました。

本番は逸る気持ちと不安を抑えながら、とにかく安全に走行することに努めて、最後まで楽しむことができました。この走行プロジェクトへの参加が実現したのは、大学のご支援と先生方や保護者の方の応援のおかげです。また、OBの強力なサポートやメンバーの整備・改良作業のおかげです。それらに感謝すると共に、更なる高みを目指して参りますので、今後ともご支援をどうぞ宜しくお願いします。



芦ノ湖スカイライン走行時のKAIT Spit



ドライバーとしてコックピットへ



走行後、富士山をバックにジャンプ!

### 新任のご挨拶

自動車システム開発工学科 教授 井上 秀雄

本年4月より就任しました井上です。トヨタ自動車(株)勤務時代は、統合システム開発部長、先端・先行企画室長等を歴任し、車両の運転・運動・先進安全等に関する制御システム全般の研究・開発とその普及に従事してきました。また、2011年より、JST(日本科学技術振興機構)の産学連携プロジェクト(S-IN)「高齢者の自立を支援し安全・安心社会を実現する自律運転知能システム」のリーダーを務めています。本学では「走るための安全進化」をめざし、機械・人間協調技術/リスク予測の運転知能技術等の研究をスタートさせました。知能化/電動化/情報化の中、クルマのイノベーションはこれから本番です。皆さん、一緒に明るく楽しい未来を築いていきましょう。

【専門】車両運動、制御システム設計、予防安全、電子・情報・通信、自動車技術全般 等

【担当授業科目】自動車のための情報・通信入門、キャリア設計、2年生特別専攻ゼミ、工学基礎演習I、自動車開発プロジェクト、卒業研究、輪講



自動車システム開発工学科 准教授 岡崎 昭仁

4月より自動車システム開発工学科に着任した岡崎昭仁と申します。これまで、自動車メーカーではハイブリッドなどパワートレインの開発、その後、大学へ移って自動車を題材にした工学教育を実践してきました。教育・研究では、「学生の成長」を第一に考えて活動を進めていきます。そのために、自動車の電動駆動を専門として、学生と一緒にアイデアを練って、それを形にして試す流れを試行錯誤しながら研究を行います。また、研究室や講義の場では、読解力から始まり問題を捉えて課題を解決する力を養っていただけるよう教育を行っています。

【専門】自動車の電動駆動化、ハイブリッド自動車、電気自動車  
【授業担当科目】次世代自動車動力、自動車工学プロジェクトI、自動車開発プロジェクトI・II、卒業研究、輪講



# ロボット・メカトロニクス学科

## 大学院生がライフサポート学会 奨励賞を受賞しました

大学院ロボット・メカトロニクスシステム専攻の宮田祐希さん(2015年度修了)が、ライフサポート学会奨励賞を受賞しました。ライフサポート学会では、全国の国公私立大学卒業予定者・大学院修了者および高等専門学校の専攻科修了予定者のうち、人格、学業ともに最優秀で、卒業研究および修士・博士課程における研究において、生命・生活支援技術の発展に積極的に取り組んだ学生を対象とした奨励賞を設けています。宮田さんは、修士論文研究として「パワーアシストハンドのインタフェースに関する研究」に取り組み、その研究成果が評価され、受賞しました。パワーアシストハンドは、空気圧によりペローズを収縮させることで、手の屈曲、伸展動作を補助するリハビリ機器で、本学の山本圭治郎特命教授により開発され、既に製品化されています。宮田さんは、モーションキャプチャセンサにより健常側の手の動きを検出し、その動きに応じてパワーアシストハンドを動作させるシステムを開発しました。この研究成果は、手の動きを正確に検出できる完成度が高いシステムであり、使いやすいリハビリ機器として実用化が見込まれます。宮田さんは、本研究の成果を3月9日に行われた第25回ライフサポート学会フロンティア講演会で発表し、本賞もその会場で授賞しました。宮田さんは、4月より大手情報機器メーカーの技術者として第一歩を踏み出しましたが、大学院での研究経験を活かして、今後社会で活躍されることを期待しています。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授/河原崎 徳之)



受賞した宮田祐希さん



会場の様子

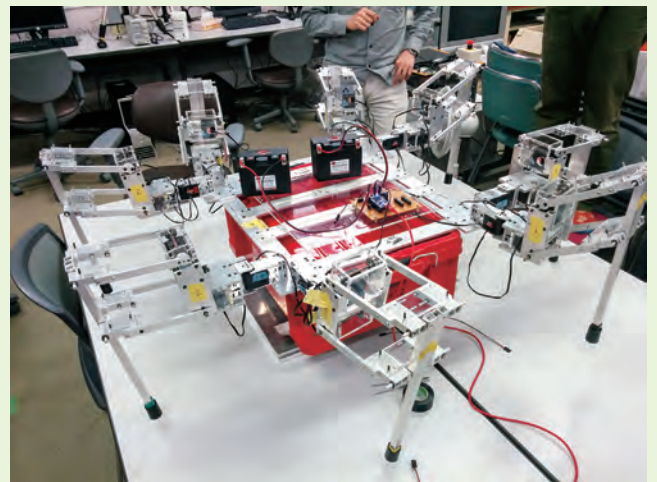
## KORP活動報告 第1期生が卒業!

今春、KORP※(神奈川工科大学オリジナルロボット製作プロジェクト)の第1期生が卒業しました。1期生は、1年生の時から意欲的にロボット製作に取り組み、2年生の頃からは13名で1つの大きなロボットの製作に取り組み始めました。学生達が選んだロボットの形状は、クモ。8本足のクモが荷物を持って、後から付いて来るという少々不気味なロボットです。設計しては作り、失敗してはまた設計のやり直しと試行錯誤を繰り返し、卒論発表が終了した後も集まり、完成させて今年の3月に卒業しました。ただ残念なことに、歩行動作をとることはできませんが、地面に脚を着けて歩くことはできません。人の後を付けるための制御回路などは作成しましたが、本体に取り付けることができませんでした。理想とはかけ離れたものができてしまいましたが、歩行動作をとることに成功した時は、大きな歓声とともに大きな充実感を感じていました。このような学生時代の経験を糧に、社会で大きく羽ばたいてほしいです。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授/吉留 忠史)

※KORP(神奈川工科大学オリジナルロボット製作プロジェクト)

KORPとは、学科の有志で結成したロボット製作グループです。競技会に出場するのではなく、とにかくロボットを作ってみようという人が集まっています。講習会を開くので初心者からでも参加が可能です。また、報告書の提出とプレゼンテーションを行うことで単位を修得できます。



KORPで作られたクモ型のロボット

## 2名の学生が研究会奨励賞を受賞しました

ロボット・メカトロニクスシステム専攻博士前期課程1年の石田大顕さんと田原諒人さん(高尾研究所所属)が、今年3月10日、11日に早稲田大学理工学部(高田馬場)で開催された日本人間工学会第24回システム大会において奨励賞を受賞しました。

**石田大顕さん**

題名:「視覚障害者向け店舗内エリア情報呈示インタフェースの開発—サイン音の音楽的表現の検討—」この研究では、サイン音という場所や方向を伝える音にメロディなどの音楽的表現を加えることにより、視覚障害者の周辺にある店舗の位置情報をわかりやすく伝えるインタフェースの開発に成功しました。これにより、視覚障害者からの要望の高い単独での買い物の実現に一步近づきました。

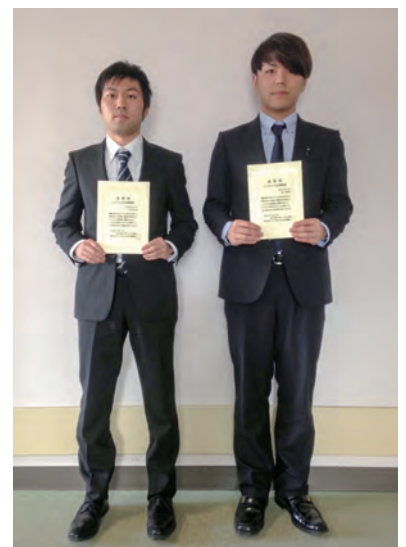
**田原諒人さん**

題名:「体型が味覚に及ぼす影響の検討—肥満判定基準の違いに着目して—」

体型の違いによって味覚の感じ方に違いが生じるかを研究したもので、肥満度が高くなるにつれて、甘味が感じやすくなり、逆に、旨味や塩味は感じにくくなる傾向があることを発見しました。将来的には肥満防止につながる新しい栄養指導法の開発につながりたいと考えています。

いずれもロボット・メカトロニクス学科における卒業研究の内容をまとめたもので、他大学を含めて会期中に発表した大学院生の中から選ばれました。今後、大学院でさらなる活躍が期待されます。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授/高尾 秀伸)



受賞した田原さん(左)と石田さん(右)

# ホームエレクトロニクス開発学科

## 学生の活躍

### 情報処理学会第78回全国大会で 大学院生2名が学生奨励賞を受賞!!

3月10日～12日に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催された情報処理学会第78回全国大会に、大学院生2年の金子将之さん(研究テーマ:「睡眠周期を利用した家電製品連携システムの開発」)、大学院生1年の小田原健雄さん(研究テーマ:「暖寒色を利用した省エネ空調制御システムの構築」)が参加しました。近年、本学科所属学生は情報処理学会で定期的に賞を受賞しており、今後の活躍が期待されています。

#### <受賞者のコメント>

小田原 健雄さん(大学院博士前期課程電気電子工学専攻1年)\*一色研究室所属  
自分が世の中の為になると信じて進めた研究がこのような評価を得たことを非常に嬉しく思います。今回いただいた評価の中の一つが、被験者の人数でした。協力いただいた方々に深く感謝いたします。  
「暖寒色を利用した省エネ空調制御システムの構築」○小田原健雄、岡本健司、坂本優大、藤田裕之、三柄貴行、一色正男(神奈川工科大学)\*敬称略

金子 将之さん(大学院博士前期課程電気電子工学専攻2年)\*黄研究室所属  
興味深い研究発表が多い中、賞を頂戴することができ、大変光栄に思います。これを励みに、残り1年間の研究生生活も実りあるよう努力していきます。  
「睡眠周期を利用した家電製品連携システムの開発」○金子将之、有馬一貴、杉村 博、一色正男、黄 啓新(神奈川工科大学)\*敬称略

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授/三柄 貴行)

### 大学院生が自主的に「RECAIUSハッカソン」に挑戦し最優秀賞を受賞!!

3月19日、20日に東京お台場テレコムセンターで開催された「RECAIUSハッカソン」に大学院生1年の数野翔太さんと宮澤重明さんが「チーム・RakuRaku」として参加し、「冷蔵庫レシピ・いっしょCooking」が最優秀賞を受賞しました。

RECAIUSハッカソンは、人の音声や画像を知識処理して活用するメディアインテリジェンス技術を駆使した株式会社東芝の音声・画像活用クラウドサービス「RECAIUS(リカイアス)」に親しんでもらい、新たなイノベーションとサービス創出の可能性を探ってもらうことを目的として行われました。

#### <受賞者のコメント>

宮澤 重明さん(大学院博士前期課程電気電子工学専攻1年)\*杉村研究室所属  
プロのデザイナーやプログラマーの方々と、一緒にもの作りをさせていただき、良い経験になりました。最優秀賞を受賞した経験は今後の活動につなげていきたいと思っています。

数野 翔太さん(大学院博士前期課程電気電子工学専攻1年)\*一色研究室所属  
学生生活2度目のハッカソンで、最優秀賞を頂きました。大学4年間で継続的に関連したイベントに挑戦しており、今回で4つ目の賞を頂くことができました。様々な賞を受賞した経験を活かし、研究活動だけでなく学外活動も頑張りたいと思いました。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授/三柄 貴行)



受賞した宮澤さん(左)と数野さん(右)

## 本学科「グローバル教育」への取り組み

学生のグローバル的素養を育成するために、国立台湾大学の林沛群先生とロボット学習教材などを開発するK. Kingdom INC社のご協力を得て、モノづくりワークショップを企画しました。

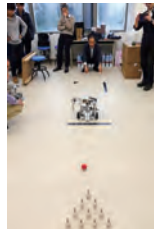
3月13日～16日、1年生から大学院生まで合計10名の学生が台湾で行われた本ワークショップに参加。台湾大学からは、3年生から大学院生まで合計10名の学生も参加しました。2日間で、ボーリングマシン製作という課題を実践。初め、学生はお互い緊張した雰囲気コミュニケーションをうまく取ることができない様子もありましたが、徐々に、身振り手振りでコミュニケーションを取りながら、真剣に課題に取り組んでいました。成果発表では、ワークショップムードが最高に盛り上がり、高い点数を取ったチームに対して皆で熱い拍手を送り成果を讃え合っていました。

参加した学生からは、グローバル化には世界にもっと目を向けることが大切であることに気づいたという感想が多かったようです。日本のガラパゴス化が問題視されていた中、諸外国の優れたものや柔軟な発想は取り込んでいくべき重要なことだと感じた学生が多かったです。英語によるコミュニケーション力の大切さがよく理解できたようです。また、台湾大学の学生の本ワークショップに対する満足度も高く、日本学生の礼儀正しさを高く称賛していました。この共同ワークショップ学習成果を基として、学生たちは現在、世界ロボット競技大会に向けて準備を進めています。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授/黄 啓新)



グループで課題攻略するための討議会



マシンがボールを放出した瞬間



台湾大学のキャンパスツアー



ワークショップに参加者



参加した本学科の学生

### 新任のご挨拶

ホームエレクトロニクス開発学科 准教授 安部 恵一

4月よりホームエレクトロニクス開発学科に着任いたしました安部恵一と申します。

これまで15年間厚生労働省所管の職業訓練施設及び短期大学校で電気電子、計測制御、組込み技術を専門とした実践技術教育を中心に行ってまいりました。

また研究では現代社会に潜む課題等を拾い上げ、情報通信技術(ICT)等を活用したソリューション技術及び支援(アシスト)システムの応用研究を行ってきました。具体的には、現代のエネルギー問題解決に直接繋がるICTを活用した宅内向け省エネルギー管理システム技術(HEMS)の研究、一人暮らしをする高齢者の生活を見守るためのモニタリングシステムの研究、東日本大震災クラスの大规模災害時の避難所支援システムの研究開発など現代社会に存在する課題解決を研究テーマとして取り組んでまいりました。

これまでの教育経験などを活かして、本学のホームエレクトロニクス開発学科ではハードウェアとソフトウェアの両面でモノを考えることができ、かつ問題発見能力及び問題解決能力を備えた熾烈な国際競争に果敢に立ち向かっていけるような実践的なエンジニアの育成に力を入れていきたいと考えています。具体的には本学・本学科から元ソニーの設立者の井深勝氏やアップル社設立者のスティーブ・ジョブズ氏のようなユニークな人材を発掘・育成していきたいと考えております。



#### [専門]

電気・電子回路設計、コンシューマ・システム、組込み技術、計測・制御技術、半導体プロセス技術

#### [担当授業科目]

電気・電子数学、デザインと製図、家電工学システム、企業連携プロジェクト、卒業研究

# 応用バイオ科学科

## 新学科長挨拶

応用バイオ科学科 教授 局 俊明

本年度から学科長を拝命した局俊明です。応用バイオ科学科の発展に、微力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします。

応用バイオ科学科では、先生方が学生の皆さんの血となり肉となるような教育成果を目指して、オリジナルのカリキュラムやテキストを作成し全力で指導を行っています。このカリキュラムをきちんと履修して、知識、技術を身につけて下さい。そうすれば社会で通用する実力が必ずつくでしょう。そして、社会に出てから、きっと“神奈川工科大学応用バイオ科学科で学んで本当によかった”と大学生活を振り返ってくれるものと確信しています。



## 新しいバイオフィアミリー 11期生を迎えて

### 新入生フレッシュャーズキャンプへ

146名の新入生を迎えて、4月6日・7日に、フレッシュャーズキャンプが行われました。1日目は、横浜キリンピアビレッジを訪れ、ビールの醸造工程の説明を受けました。その後、南九十九里のホテルへと移動し、全体ガイダンスと夕食の後に、クラス懇談会を行いました。ここでは自己紹介を行うことでクラスメンバー同士の親交を深めるとともに、アシスタントのため同行した応用バイオ科学科上級生達と履修登録科目の確認や相談をすることで“縦”の交流が図られました。2日目はあいにくの天候でしたが、葛西臨海水族館の見学を行い大水槽のマグロやペンギンの姿を見ながら、同級生だけでなく、教職員とも交流を深めました。



横浜キリンピアビレッジ見学の様子

## バイオ技術者認定試験で3名が表彰

平成27年12月20日に中級および上級バイオ技術者認定試験が本学会場で行われ、応用バイオ科学科から数多くの学生が受験しました。中級試験では99名(合格率75.6%)、上級試験では64名(合格率75.3%)、合わせて163名が合格しました。また、上級試験において中村圭佑さん、吉田智彦さん、荒井麻那さんの3名が、日本バイオ技術教育学会から優秀賞として賞状と記念品が授与されました。

### 縦コン2016&キャンパスツアーを開催

本学科では、新入生歓迎と縦の交流を目的として、学部1～4年生・院生・教員が一室に会する「縦コン」を毎年4月に開催しています。今年度は授業開始初日の4月8日に開かれ、400名近くの応用バイオ科学科の学生が第一食堂に集まり親睦を深めました。縦コンの準備・企画は2年生に行ってもらいました。本年度はジュースを賞品にじゃんけん大会が行われました。

また、新入生同士のコミュニケーションと、これから使用する施設の役割や位置を知ることなどを目的に、キャンパスツアーも行いました。今年は、4年生の堤杏子さん、菅原啓亮さんが中心に企画を組みました。目的の場所へ各グループで行って、スタンプをもらいうラリー形式で、上位のグループには、メンバー全員にサイエンスのカードゲームやバクテリア培養キット、ポケット顕微鏡がプレゼントされました。



縦コンで大集合した本学科学生と教職員

## 海外バイオ研修 シアトルと台湾で実施

語学(英語または中国語)とバイオ実験を海外で体験できる半年および1ヶ月留学プログラムが、米国のサウスシアトルカレッジと、台湾の明道大学で行われました。台湾の1か月留学には、唐澤拓也さん(電気電子情報工学科)、阿部拓児さん、梅本笙さん(情報工学科)、中井優奈さん、武田かな子さん、若松春希さん(応用バイオ科学科)の6名が参加しました。シアトルの半年留学には、渡邊湧姫さん、菅原啓亮さん(応用バイオ科学科)が、1ヶ月留学には、比屋根舞さん、島田希美さん(栄養生命科学科)、阿部信太郎さん、小山真以子さん、杉之間大貴さん、佐々木実穂さん、高須賀俊彰さん、矢野育さん、竹村美咲さん、瀧澤光太郎さん(応用バイオ科学科)の10名が参加しました。例年以上に学生が海外研修に参加し、異文化理解の大切さを肌で感じ、帰国後の発表会においても自身の体験を熱く語っていました。



シアトルの海外研修に参加した学生達



台湾の海外研修に参加した学生達

## 平成27年度成績優秀者表彰

新学期ガイダンスに合わせて、平成27年度成績優秀者として以下の学生に、表彰状と記念品が授与されました。

新4年生: 吉田智彦さん、荒井麻那さん、中村圭佑さん  
 新3年生: 右田恵さん、仲田南美さん、山本洋介さん  
 新2年生: 山田翔太さん、村越のどかさん、八代華澄さん

また、上記の学生に新4年生の谷村幸奈さんを加えた皆さんに、昨年度新設された「菊地幹夫奨励賞」と副賞の図書カードが授与されました。

### 応用バイオ科学科移籍の挨拶

応用バイオ科学科 教授 鳴海 明



今年度、生物と工学の融合分野を担当するために、機械工学科から応用バイオ科学科に移籍しました。機械工学では熱工学という分野を担当してきました。何故、機械工学からと思われる人もいらっしゃるかもしれませんが、生物は太陽からのエネルギーで生命を維持していることからわかるように、熱工学は本来生物と密接な関係がある学問分野です。バイオに関係した問題を熱工学の視点で研究していくことで、多面的な視点のおもしろさ及び重要性を理解してもらえればと思っています。

# 栄養生命科学科

## 新入生入学おめでとうございます。 フレッシューズキャンプを開催

4月6日、7日の二日間にわたって、新一年生は箱根方面へフレッシューズキャンプに行きました。道中では桜の花が美しく、バスの中では早速できた新しい仲間と盛り上がりしていました。県立生命の星・地球博物館では講義による説明をしていただき、珍しい石や生物を見学しました。旅館では、教員紹介や自己紹介、学科の説明、先輩によるアドバイスなど、これからの学生生活について大切な話がありました。

これから4年間、たくさんの方のサポートをいただき、仲間とともに管理栄養士を目指して充実した学生生活を送りましょう！



## 「臨地実習Ⅳ」報告会を実施

3月29日、「2015年度 臨地実習Ⅳ」報告会が開催されました。5期生の学生が、事業所や学校給食センター、セントラルキッチンで、給食の運営について学んだことを報告しました。学内実習ではできない経験を有意義なものにするため、学生たちは高い目標を持って臨地実習に取り組みました。報告会では、一回り成長した姿を見せてくれました。報告後には活発に質問・議論が行われ、更なる学びがあったことと思います。また、他の施設の報告を聞くことで学びを共有できました。今回参加した下級生は、先輩の報告を聞き、臨地実習のイメージ作りが出来たことと思います。下級生にとっても有意義な報告会となりました。



## +αプロジェクト発表会を実施

平成27年度 +αプロジェクト発表会が4月4日に行われました。報告者は新4年生で、前年度に実施した+αプロジェクトの内容について報告しました。発表からは、食品企業や管理栄養士が活躍する現場で実際に活動したことで、貴重な経験をいただけたことが伝わってきました。報告会には、プロジェクトでお世話になった企業や施設の方々もお越しいただき、下級生からの質疑応答時には、補足説明をしていただく場面も見られました。学生たちにとって、学外の方のお話を伺うことのできる良い機会になったことと思います。



## 栄養生命科学科3期生 ～初めての国家試験後の卒業式～

3期生の卒業式が、初めて国家試験(3月20日)後に行われました。1期生、2期生の時とは違い、皆、晴れやかな面持ちで式に臨み、大学主催の卒業記念パーティにも初めて、心置きなく参加できました。

また、初めて本学科の助手として仕事に就き、後輩の指導にあたることになった卒業生もいます。皆さんの活躍を期待しています。



### 新任のご挨拶

#### 栄養生命科学科 准教授 大澤 絢子

4月より栄養生命科学科に着任しました大澤絢子と申します。学校や病院、高齢者施設等で提供する給食では、安全・栄養・経営に配慮しながら、毎日おいしい食事を生産しつづければなりません。そのためには、栄養学・調理学だけでなく、衛生学をはじめとする幅広い知識とマネジメントスキル、経営学的視点を有する管理栄養士が必要です。知識だけでなく、科学的視点に基づく判断力と実践力、豊かな創造力とコミュニケーション能力を有する学生を育てたいと思っています。また、卒業研究では、給食を生産する過程で食品に生じる様々な変化を科学的に検討し、安全かつ栄養豊富でおいしい食事をより効率的・安定的に生産するシステムの構築に貢献することを目指したいと考えております。

【専門】給食経営管理学  
【担当授業科目】給食経営管理論、給食経営管理実習、臨地実習、卒業研究



#### 栄養生命科学科 助手 杉本 悠貴

はじめまして。この度、栄養生命科学科に赴任いたしました杉本悠貴と申します。私が、管理栄養士を志すようになったきっかけは、親族の入院でした。そこで管理栄養士に出会いました。食の細い親族の話を親身に聞き、献立に反映する「食のプロフェッショナル」がいるということを知り、管理栄養士を志すようになりました。それぞれ管理栄養士を志すきっかけは異なると思います。しかし、どのようなきっかけであっても、食のプロとして胸を張り社会で活躍できるよう学生のお手伝いができたらと思っています。

皆様のお力をお借りしながら、これから学生のために邁進していく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。



#### 栄養生命科学科 助手 白井 桃美

4月に栄養生命科学科の助手として着任いたしました白井桃美と申します。

2014年に管理栄養士免許を取得後、大学院に進学し2016年に修士号を取得いたしました。大学院では小麦、乳、卵を含まないアレルギー対応食品の開発を目的として、グルテンフリー米粉パンに及ぼす増粘多糖類の影響について研究を行いました。研究で培った知識をベースに、学びの姿勢を忘れず、皆さんの授業と学生生活が充実した時間になるように精一杯サポートさせていただきます。未熟者ではありますが、宜しくお願い致します。



#### 栄養生命科学科 助手 廣瀬 奈美

4月より栄養生命科学科に赴任いたしました廣瀬奈美と申します。2016年3月に本学、応用バイオ科学部栄養生命科学科を卒業いたしました。

学生時代は管理栄養士免許の取得を目標に4年間勉学に励み、その結果、2016年3月に実施された国家試験に合格いたしました。学ぶ側から学生を支えていく立場となった今、学生時代に培った経験は強みとなりました。

現在、社会人1年目とまだまだ未熟ではございますが、学生のために精一杯、尽力させていただきます。宜しくお願い致します。





# 情報工学科



## 学生の学会発表

情報系の研究者にとって、3月は大きな学会が2つあります。1つは情報処理学会全国大会で、もう1つは電子情報通信学会総合大会です。これらの学会は、情報系の様々な分野の研究者たちが一堂に会する数少ない場ですので、自分らの最新の研究成果を発表することはもちろんのこと、普段顔を合わすことのない仲間たちと情報交換をするために参加する研究者がたくさんおります。また、学生が発表しやすいよう、学生の発表のみをまとめたセッションが設けられており、本学情報工学科の学生らもこの場で修士論文や卒業論文の研究成果を発表します（まだ3年生で大学院生らと肩を並べて研究発表する優秀な学生も在籍しています）。中には、大学院生で数回目の発表のため、場慣れた雰囲気もある学生もおりますが、初めて発表を行う学生は緊張感でいっぱいです。そして、初めてのことに全く動いていないように見える学生もいます。（本人は緊張していたとのこと）卒業する学生にとっては、自身の卒業旅行と重なってしまう傾向があるので、学会と卒業旅行を兼ねている面もあるようです。そのためか、近隣で開催される学会での発表件数が少ないようです。

情報処理学会第78回全国大会が、3月10日から12日の日程で、慶應義塾大学にて開催され、本学科から3件の発表が行われました。以下に発表者とタイトルを記します。

- 松山 聖路 コンテキストに応じたサービスを提供する車載情報端末の検討
  - 山辺 教智 スマートフォンカーナビにおける操作性向上方式
  - 小沼 寛 bsdiffを応用したECUソフトウェア高速ダウンロード
- 電子情報通信学会2016年総合大会が、3月15日から18日の日程で、九州大学にて開催され、本学科から14件の発表が行われました。以下に発表者とタイトルを記します。
- 赤木 信也 リーダビリティ指標を用いた文章評価システム「MRead」の開発—文章難易度のリアルタイムフィードバック—
  - 荒木 雄登 頭部装着ディスプレイを用いた聴覚障害者向け情報保障アプリケーションの開発
  - 金田 一将 スペクトラム拡散音源による屋内測位におけるユーザ収容数の検討
  - 河合 博之 画像優位性効果を用いた音声認証システムの実装
  - 柴田 紘俊 手話動作の特徴を用いたクラス分けによる認識性能向上の基本検討
  - 鈴木 貴士 カウス雑音重畳画像の推定とウィナーフィルタへの適用
  - 田所 龍介 顔追跡技術を用いた文字入力インタフェースの開発
  - 仲西 篤 UDP/IP通信を用いた組込みシステムのための信頼性を有するプロトコルの提案とハードウェア実装
  - 星野 裕樹 学生の進捗度把握機能を有するプログラミング演習支援システム
  - 村田 翔太郎 屋内測位における拡散音源の非可聴音化の検討
  - 秋澤 省吾 連続同口形を考慮した発話映像自動生成の提案
  - 工藤 明仁 手話認識のための照明変化にロバストな色検出手法の検討と評価
  - 築地 勇人 オンラインJavaコンパイラの利用によるJava演習授業支援環境の構築
  - 吉本 怜王 カラー手袋動画画像を用いた手話認識へのHMM適用の検討

(文責:情報工学科准教授/八木 勲)



### 新任のご挨拶

### 情報工学科 教授 谷代 一哉

4月より情報工学科に着任しました谷代一哉と申します。これまで人の「生理機能」について、運動・スポーツとの関連から筋機能を中心に測定・計測を行ってきました。

現在は今まで行ってきた測定や計測技術をもとに、人の「生理機能」のみならず、更に運動時の人の「動き・(動作)」とその際の「生体情報」にも着目し、これらを「情報通信技術」と融合させた「スポーツ情報科学」という新たな試みに取り掛かっております。これらはもちろん、オリンピックを見据えた「競技スポーツ」のサポートや健康増進のための「(中高年者の)健康スポーツ」などに対しても、様々な支援が可能であると思っております。スポーツに関わりを持ちたく、興味のある方は是非、一緒に行いましょう。

【専門】スポーツ生理学、スポーツ工学、スポーツ情報科学  
 【担当授業科目】情報リテラシー、スポーツ科学、スポーツ情報科学概論、卒業研究



## 学生の受賞



修士2年の金田一将さんが、電子情報通信学会が主催したヒューマンコミュニケーショングループシンポジウム(昨年12月、富山国際会議場で開催)で発表した論文(題名:スペクトラム拡散を用いた多ユーザ収容可能な非可聴音による屋内測位の基本実験)で、オーガナイズドセッション賞を受賞しました。この発表は、研究室として取り組んできた理論検討とシミュレーション結果をもとに、ハードウェアの試作とソフトウェア開発によって測位システムとして構築し、実験によってその妥当性ととも基本的な特性を明らかにしたものです。ハードからソフトに至る広範囲な検討と開発、そして地道な実験が評価されたようです。

金田さんは、「学生時代にこうした栄誉ある賞を頂けることをとても光栄に思います。同セッションで様々な大学や企業の方が発表された中で受賞ということで、身に余る思いでもあります。改めて、指導いただいた先生、実験などを手伝っていただいた多くの先輩や研究室の皆さんに感謝申し上げます。」と感想を寄せてくれました。修士論文の完成に向けて、今後の活躍を学科としても大いに期待しています。

(文責:情報工学科教授/田中 博)

## 「会社訪問体験」実施報告

情報工学科を卒業する学生の多くは、就職先として情報サービス産業の企業を選んでいきます。そのような学生のために、本学科では、一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会(神情協)と共同で、「会社訪問体験」という企画を実施しています。この企画は就職活動を控えた3年生が、その予行演習として、神情協加盟の企業を訪問し、情報サービス産業の現状や訪問企業の事業などを調査するというものです。7名程度のグループで企業を訪問するのですが、訪問前には、学科教員によるマナー研修、また、訪問の前後に訪問企業についての調査や訪問を通じた気づきの共有を目的としたグループワークがあります。参加する学生は、本番の就職活動さながらの緊張感をもって、企業を訪問しており、「業界についての理解が深まりとても有意義だった」「企業を選ぶ基準ができた」といった感想も聞かれています。2015年度は2年目の実施でしたが、延べ100名以上の学生が参加しました。

(文責:情報工学科教授/稲葉 達也)



## 情報工学科「ピア・サポート」の取り組み

情報工学科では昨年度よりピア・サポートを実施しています。ピア・サポートは、学生同士による相互援助のことであり、勉学や大学生活について上級生が下級生に対して相談に乗ってくれたりアドバイスをくれたりします。教員も学生からの授業に関する質問に対応したり勉学に対するアドバイスを与えたりしますが、ピア・サポートでは学生目線でのサポートが可能となります。学生だからこそわかる苦労や心配事があると思います。上級生はそういった経験からくるアドバイスをくれたりするので、下級生も安心できたり、やる気につながっていきやすくなると思います。

昨年度の情報工学科ピア・サポートには、1、2年生を中心として延べ119名の学生が参加しました。参加した学生は主にC言語プログラミング等の演習系専門科目について教えてもらっていました。そして、継続して参加した学生は少しずつ授業の内容がわかるようになっていき、それにより授業に対して積極的に取り組むようになっていきました。参加者の中には、前期では不合格となった科目も、後期には合格となった学生もたくさんいました。

ピア・サポートは、国内外の多くの大学で取り組みをスタートしています。本学でも「KAITpia(カイトピア)」という全学的なピア・サポートの活動が本格的に始動しています。今年度はKAITpiaとも連携を取りながら、情報工学科ピア・サポートの取り組みを続け、学生支援の体制を強化していきたいと考えています。

(文責:情報工学科教授/宮崎 剛)



# 情報ネットワーク・コミュニケーション学科



## 平成27年度 学生の学会発表

情報ネットワーク・コミュニケーション学科の研究室では、学生自身の研究成果を積極的に学外で発表することを推奨しています。平成27年度も多くの学生が発表を行いました。以下に発表を行った学生(一部)を掲載します。

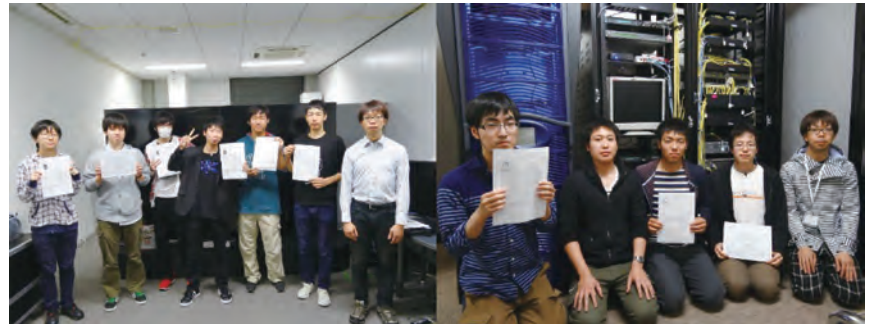
田内 悠希、伊東 亮、乙部 一真、末光 孝紀(丸山研究室)、藤原 優馬(臼杵研究室) 電子情報通信学会 総合大会: 福岡/藤村 春輝(凌研究室) FIT2015: 松山/藤村 春輝(凌研究室)、浜地 達也(岡本剛研究室) 情報処理学会 全国大会: 横浜/多羅尾 光宣、佐野 史和(岡本剛研究室) AROB 21st 2016: 大分/梅原 直人 他(岡本剛研究室) 第5回バイオメトリクスと認識: 認証シンポジウム: 東京/多羅尾 光宣(岡本剛研究室) コンピュータセキュリティシンポジウム2015: 長崎/梅原 直人 他(岡本剛研究室) CSIE2015: バンコク/佐藤 大悟 他(岡本剛研究室) バイオメトリクス研究会: 富山/陳 致豪 他(岡崎研究室) CSS2015: 長崎/堀 孝浩(岡崎研究室) 情報処理学会 全国大会: 横浜/伊藤 茜 他(岡本学研究室) ACSAC2015: ロサンゼルス/伊藤 茜(岡本学研究室) IWSEC2015: 奈良/小林 美月、熊澤 祐紀 他(岡本学研究室) IEEE S&P2015: サンノゼ/熊澤 祐紀(岡本学研究室) SCIS2016: 熊本/伊藤 茜(岡本学研究室) 電子情報通信学会 総合大会: 福岡/我妻 了(岩田研究室) FIT2015: 松山

## 神奈川工科大学がシスコネットワークキングアカデミーから 優秀な教育機関として表彰されました!

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、シスコシステムズ合同会社(以下、シスコシステムズ)が提供する教育プログラム(シスコネットワークキングアカデミー)を活用して、シスコシステムズが認定する資格を取得するための無料の集中講座を開講して、昨年度は16名の受講生がCCENT認定資格に合格しました(CCNA認定資格は5名合格)。これまでの合格率は、他校を圧倒する84%です(他校は15~30%)。

こうした実績が評価され、神奈川工科大学が日本での優秀な教育機関として表彰されました。表彰された学校は世界全体で59校で、日本では3校が表彰されています。また担当講師の岩崎祐也先生も優秀なインストラクターとして表彰されました。

この集中講座は、夏休みと春休みの2回を予定しています。本講座の受講生から、「自分がこの資格を取れるとは思わなかった」、「集中講座でじっくり学べて理解に繋がった」、「サーバールームや光ファイバの配線工事などを見学してさらにネットワークに興味が出てきた」などの感想があり、大変好評です。



## 本学科の就職支援活動

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、学科就職室を学生支援拠点として、学生の皆さんの就職活動を、さまざまな角度からサポートしています。

就職への意識が高まる3年次の秋から就職室を使う学生が多くなるので、この時期に「就職室ガイドツアー」を実施しています。このツアーでは「就職の高い壁」を乗り越える心構えや、就職室の利用方法、先輩方の就職先、就職活動とは何かなど、研究室ごとにレクチャーしています。また、3年生全体に対して「院生、学部4年生内定者が語る就職活動体験」と題した講演会を実施し、就職活動の最前線の状況に早くから触れて貰っています。

また、3年次後期から4年次にかけて、各研究室から「就職係」の学生を1名選出しています。4年次になると「就職係」は毎週就職室に立ち寄って就職室からの連絡を研究室に持ち帰る役割を担います。さらに研究室のメンバーの様子を就職室に伝え、就職室ではその情報を元に、学生それぞれに合った就職活動のサポートを行っています。研究室の中に、就職活動に行き詰っているようなメンバーがいた場合には、就職係が率先して声掛けを行います。同じ思いをしている仲間との会話には励まされ

られるだけでなく、お互いが内定を勝ち取るための強い原動力にもなるようです。就職活動を成功させるためには情報交換も欠かせないものであり、ときには実際に社会で仕事に就いている先輩(卒業生)の経験談を話す場になることもあります。

就職室と研究室が一体となって「内定」というゴールを目指すことで、就職活動に対するモチベーションアップにつながり、高い内定率を達成しています。

昨年度の本学科の内定率は95.5%でした。今年の滑り出しは昨年度よりもよく、

順調に就職活動をを進めている学生が多い印象です。特に3年次にインターンシップを経験している学生が成果を上げています。インターンシップを通して、就職活動が本格化する前に社会についての理解を深め、自分の将来を考えてみることも大切なことですので、インターンシップの参加を検討してみましょう。



## 研究紹介 **さまざまな機器を、空書で手軽に操作する**

### 臼杵研究室

今回は臼杵研究室で取り組んでいる研究の中から、カメラで読み込んだ人間の手の動きだけで機器を操作する研究について簡単に紹介します。

日常生活の中で何気なく空中に文字を書く空書という動作があります。この空書をコンピュータが正確に認識してくれたら便利になるといいませんか? 小さな子供が押しにくい位置のボタン操作、チャンネルを変えるときのリモコン操作、これらが何も触れずに手を軽く動かすだけで行えるようになります。これまでもこれに近い技術は実現されてきましたが、ここではさらに細かく複雑な操作を、手に何も持たずにカメラに向かう空書だけでリアルタイムに行うことを試んでいます。

素手では機器に触れにくい場合、コントローラーなどの入力装置を準備しにくい場所でも、手軽な操作ができるようになります。また、最近は機械自体の機能が増えることで操作も複雑化しているため、機械を操作する入力装置を使いこなす学習にも時間を要するようになっていますが、空中に空書するだけで日頃慣れている文字を書く感覚で複雑な操作ができるようになって考えています。

このような研究ではカメラ撮影時の手以外の背景情報などに影響を受けて認識精度が低くなりがちですが、背景情報を意識せずに90%を超える認識率を得られるように

### 情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授 臼杵 潤

なりました(写真:1)。この研究はこれまで卒業していった先輩から受け継ぎ、大学院2年生の藤原優馬さんがさらに安定した認識率を出せるように技術面の全体の見直しとさらなる磨きをかけており、その成果を学会でも発表しています(写真:2)。細かな技術面の話はまたの機会にしますが、今後も更に認識精度を上げ実現可能性を広げていく予定ですのでご期待ください。



写真:1



写真:2

## 学生発表会「MediaExpo2016」でゲームクリエイター特訓や卒業研究の成果が展示されました

情報メディア学科では毎年恒例となる、学生発表会「MediaExpo 2016」がユニコムプラザさがみはらにて、3月5日に開催されました。会場では卒業研究や卒業制作、ゲームクリエイター特訓で作られたシステムの展示などを行いました。白井研究室からは、見る位置により異なる映像を提示できる「パブリックサイネージに適した多重化映像技術の提案」、坂内研究室からは使用者と対話者が同一空間にいるような映像の中で直感的に指示が行える「街中ガイドコミュニケーションシステム」、および「Youtube/バーチャルライブ」の展示が行われました。

ゲームクリエイター特訓の展示コーナーでは、大事なものを無くさないように、モノを置く場所を習慣付ける「漬け物コレクション」、おせっかいな仙人が一人暮らしの生活リズムを整えて遅刻を減らす「拝爺ハウス」、ラジオ体操自体を楽しむ「神・ラジオ体操第一」等の展示を行いました。発表ではゲーム開発の現場で働くゲストの方々からの鋭い指摘等を受け、実りある展示会になりました。(文責:情報メディア学科准教授/中村 隆之)



## 情報メディア学科の白井暁彦准教授と谷中一寿教授が発明した「情報表示装置」が特許として登録されました

本発明は、複数の映像を一つのディスプレイ上に表示する際、新たに開発した信号処理アルゴリズムを用いれば、特定の映像を裸眼では見えなく(不可視化)することができ、不可視化された映像は偏光メガネ等を使うことによって見ることを可能にするものです。

映画の上映や、講演会などで聴覚障害者のために講演内容をスクリーン上に字幕として不可視化しておく、あるいは映画館の立体映像スクリーンで利用するメガネを2D+3Dのハイブリッドにして、いつでもみんなが同時に鑑賞できるなど、様々な用途が考えられ、国際会議や経産省をはじめ高い評価を得ています。現在、その実用化に向け、より多くの企業とのコラボレーションを推進しています。

- ◆発明の名称: 情報表示装置
- ◆特許番号: 第5885227号 ほか1件
- ◆登録日: 2016年2月19日、ほか1件は特許査定済



白井暁彦准教授

谷中一寿教授

## 情報メディア学科の4年生の研究がテレビアニメーションのスタッフロールに掲載されました

2016年4月より放映・ネット配信中の新番組「宇宙パトロールルル子」のエンディングスタッフロールに情報メディア学科白井暁彦准教授と情報メディア学科4年藤倉伊織さんの名前が掲載されています。これは鉛筆・手描きアニメーション制作支援ツール「SengaDouga」開発協力によるものです。

<ビジュアル>



©TRIGGER・今石洋之/宇宙パトロールルル子製作委員会☆☆

ストーリー:

銀河指定宇宙移民特区OGIKUBO。地球人と宇宙人が暮らすこの変な街に産まれ育った現役女子中学生のルル子。『普通』を目指していたルル子だが、ある日の朝食から普通が崩れていく。

オンエア情報: <http://luluca.tv/onair>

### ◆株式会社トリガーについて

<代表的な制作作品>

テレビアニメシリーズ: 「キルラキル」、「異能バトルは日常系のなかで」、「キズナイーパー」

劇場アニメ: 「リトル ウィッチ アカデミア」

Webアニメ: 「ニンジャスレイヤー フロムアニメイシヨン」

## 情報メディア学科西村広光准教授が日本学生相談学会の学生支援士資格の認定を受けました

学生支援士とは、高等教育機関の教職員を対象に、大学カウンセラー等と協働して学生サポートを行う学生支援技能・知識を認定する資格です。まだ全国で10名程度しか認定されていない新しい資格ですが、その中の1名が本学に誕生しました。西村准教授は「今後も、本学の充実した学生支援に寄与してまいります。」と話しています。



西村広光准教授

## 情報メディア学科移籍の挨拶

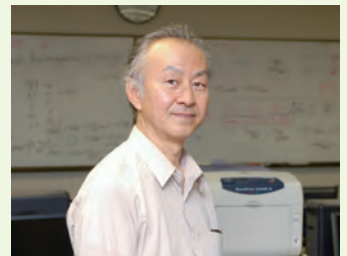
### 情報メディア学科 教授 西口 磯春

今年度、情報メディア学科に移籍しました。簡単に自己紹介をさせていただきます。大学では機械工学科で学び、大学院では構造力学分野のシミュレーション技術を研究しました。構造力学とは、航空機や自動車などの機械類、あるいは発電所の機器やビルディングなどの大型構造について、その変形や破損、振動などを扱う学問です。もともと音楽が大好きで、約25年前に本学に赴任したとき、この技術を楽器に応用できないか、ということでピアノの研究を開始しました。それ以来、構造力学と共に楽器音響の研究を続けてきました。楽器の中で起こっている物理現象をコンピュータで再現して音源を制作する技術や、新しい鍵盤楽器の開発を行っています。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。



### 情報メディア学科 助教 佐々木 正孝

今年度4月より自動車システム開発工学科から情報メディア学科へ移籍となりました佐々木正孝です。前任の学科では機械系の科目が主でありましたが、ほかにピアノ音の解析や調律を支援するソフトウェアの開発も行ってきました。本学科では楽器に関連するアプリケーション開発が主となりますが、楽器にこだわらず、またパーソナルコンピュータだけでなくArduinoなどのマイコンボードやスマートフォンの機能を活用したアプリケーションの開発についても皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



# 看護学科

## 新入生～フレッシュャーズ・ガイダンスを実施

昨年度開設いたしました看護学科では、今年度は2期生93名が入学しました。4月1日から大学生活が始まり、新入生は少し緊張しながらも期待に胸をふくらませながらオリエンテーションを受けました。クラス全員が同じ時間割に沿って学んでいた高校とは異なり、たくさんの授業科目から履修科目を選択して自分だけの時間割を作ることに戸惑いながらも、大学での主体的学習の第一歩として履修登録を行いました。フレッシュャーズ・ガイダンス1日目のキャンパスツアーでは、看護学科2年生がガイドだけではなく大学生生活の過ごし方などのアドバイスもしてくれました。夢と希望でキラキラと輝いている新入生と交流できたことは、2年生にとっても初心に戻るよい機会になったようです。2日目には、昼食会での「じゃんけんトレイン」で大変盛り上がりました。最後には新入生と教員全員がひとつに繋がりました。4年後には2期生全員が看護職として羽ばたいていけるように、トレインのように2期生と教員と皆がひとつになって、頑張っていきたいと思いますよ!

(文責:看護学科准教授/佐藤 美由紀)



ガイダンスや懇親会、じゃんけんトレインの様子

## 入学から一年を迎えて 2年生の声

### ○ 塩谷 優果

1年前、私は自分の夢に、これから学べるだろう多くのことに期待と不安を持ち看護学科に入学しました。そして1年間を振り返ると、自分にとってすごく充実した日々を過ごすことができていました。悩むこともありましたが、それ以上に看護の魅力を感じました。看護師になるためには乗り越えなければならない壁に何度も遭遇すると思います。そんな時には初心を忘れず、自分の中の看護の魅力を大切に、立ち向かっていきたいと思っています。

### ○ 丹沢 恵理

看護学部1期生として入学してから1年が経ちました。この1年間で看護の基礎となる勉強を多く学び、2年生からは各分野ごとに分かれた勉強が始まりました。後期には2週間の実習があり、患者様を受け持ちます。一人の命を預かるという不安もありますが、実習に向けて1日1日しっかりと学んでいきたいと思っています。そして一期生として、これからの看護学部を引っ張っていけるように努力していきたいです。

### ○ 長田 菜央

1年間看護学科で学んで感じたことは大変だけ楽しいということです。課題や勉強は簡単なものではありませんでしたが、看護師になるという夢に向かって頑張ることはとても楽しいことだと感じました。また、剣道部に入学し部活を通して他学科の先輩や友達に出会ったことで自分の世界が広がったように感じました。部活と看護の勉強を両立し、充実した1年を送ることができたと思います。

### ○ 齊藤 加那子

私は看護学生として、1年間様々なことを学びました。看護の基礎から始まり、発達段階ごとの看護について学び、実技実習などを通して、実際に看護していく上で必要な知識や技術を学びました。また、看護学生として看護を学ぶと同時に、文芸部に所属して活動しました。部活では天体について学ぶだけでなく、観測や発表、合宿を通して様々な学部、学年の人と関わりを持ち、充実した学生生活を送ることができました。

## 国際がん看護学会研究成果の発表

看護学科 教授 田村 幸子

2015年7月8日～11日に、国際がん看護学会がカナダのバンクーバーで開催されました。私は、ここ数年連続してきたがんサバイバーに関する研究成果を発表してみようと応募したところ採択され、看護学科開設初年度の不慣れた大学状況にもめげず行ってまいりました。実は数年前に、国際看護学会に採択されたことがあり、その際には口頭発表はなんとかしたのですが、発表後にネイティブスピーカーから早すぎる英語の質問が浴びせられ、6割程しか耳に届かなかった情けない経験があります。ですから今回は初めからポスター発表に応募し、大きな布ポスターを製作・豊んで持参しました。いざ会場では、ポスターの張り出しと撤収の日時、および発表の日時が会期中複数回指定されていました。発表時間帯のスタンバイが義務づけられており、興味を持った参加者から質問を受けて答えるやり方でした。実際には黙って立っただけでもあまり質問がなく、こちらから声かけると意外に多くの方が寄ってきました。以前の口頭発表の時より余裕のあるコミュニケーションがとれたと思います。また、ポスターの横に印刷資料や名刺を備えておくと、持っていく人が結構いるものです。他国の発表者のポスターは実に様々で、その国の状況が垣間見えます。おかげさまでいい経験になりました。



The University of British Columbia



International Conference on Cancer Nursing 2015

## 新任のご挨拶

### 看護学科 教授 芝山 江美子



4月より看護学部看護学科に赴任致しました芝山江美子と申します。3月までは、京都の佛光大学におりました。これまでの研究は、海外のインドネシア国のステカス大学との連携における取り組みや、高齢化の問題等をグローバルに捉え、地域に根をおろした質的研究を実施してまいりました。今後はさらに高齢化の問題を深めていき「元気な高齢者」を地域の中で具体的にどのように支えていくプロセスがとても大事かと思っております。学生との研究でも地区踏査を通し、地域の課題が見つかることができるよう支援をしていきたいと思っております。さらに英語論文の読解や研究の背景が理解し活用できるようにともに学び続けてまいりたいと考えております。  
【専門】公衆衛生学、国際看護【担当授業科目】公衆衛生看護学概論、地域保健、健康教育等

### 看護学科 教授 難波 貴代



4月より看護学部看護学科に着任しました難波貴代と申します。専門は在宅看護学です。わたくしは訪問看護師として13年間、ご自宅で療養されている利用者さんとご家族に向けてケアを実施してきました。その後、大学院では要介護者のADL改善に向けての測定用具開発、そして在宅ケアに向けての海外調査の実施など、介護保険に影響を与えられる研究を実施してきました。現在は、「高齢者虐待における共依存関係に焦点をあてた看護介入モデルの構築」「新卒訪問看護師を育成するための教育プログラムの開発」という2つの研究テーマを実施しております。  
【専門】在宅看護学【担当授業科目】在宅看護学概論、在宅看護学I・II

### 看護学科 講師 橋本 真由美



4月より看護学科の成人看護学領域に着任した橋本真由美と申します。専門は救急・災害看護です。身体や環境の急激な変化をうける対象となるひとに必要な支援は何か、どのような支援ができるのか、タイミングはどうか、最適な手段は何かを考え、そこから自己の課題を導き出すことができるような学生を育てていきたいと考えております。研究テーマは、災害訓練システムです。いつ起こるかかわからない災害に対応するには、自分の身を自分で守れるよう備えること、そして自助・共助が基本となります。訓練システムを教育に応用していくことを中心に研究を行っております。  
【専門】救急・災害看護学【担当授業科目】成人看護学活動論I、災害看護学

### 看護学科 助教 金子 直美



4月より看護学科基礎看護学領域に着任いたしました金子直美と申します。現在、看護職の離職とワークエンゲイジメントの関係性を把握しながら、職務が継続できる方法を研究しています。ワークエンゲイジメントとは、「仕事に誇り(やりがい)を感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て活き活きしている状態」をさします。そして、このワークエンゲイジメントが高い人は、確かな知識や技術を持ち、自己の看護観を持っている態度(心)のしっかりしている人であることが分かっています。この知識、技術、態度は看護学生のころから培われていくものです。皆さんが「看護って素敵! 楽しい!」と感じながら、これらを学んでもらえるように関わっていきたくと考えています。そして、将来長く看護師として活躍して頂けたらと願っています。

### 看護学科 助手 石井 千晶



4月より看護学科に着任致しました石井千晶と申します。大学では、看護師、保健師、養護教諭の免許を取得致しました。また、卒業研究では、養護教諭と生徒との信頼関係の構築についての研究を行い、卒業後は、養護教諭として勤務してきました。人は、誰もが地域で生活する住民であり、自分の住む地域や家・学校は、人々にとっての居場所だと思います。地域で生活する、支援を必要とする方々の生活の安心・安全の為に、支援者はどのように関わっていけば良いのか、学生と一緒に考えていきたいと思っています。私のこれまでに得た経験や知識を最大限に活かし、学生のために尽力させていただきたいと思っています。若輩者ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

# CLUB ACTIVITIES

# クラブの活躍

## 硬式庭球部



### 目標は関東大学テニス連盟6部昇格 礼儀や思いやりなど、人間性も重視!

6月下旬から最高の権威と格式を誇るウィンブルドンテニス(全英オープン)が始まるなか、世界ランク5位(今年5月23日現在)の錦織圭選手の活躍に期待が集まるなど、静かなブームを呼んでいるテニス。神奈川工科大学硬式庭球部もまた、ここ数年、所属する関東大学テニス連盟や関東理科大学硬式庭球連盟の大会で着実にステップアップするなど、実績を積み重ねてきています。これまでは「弱小」といわれたこともある硬式庭球部。「使い古された言葉ですが「心」「技」「体」をバランスよく鍛えました」——。結果、ここ数年で逞しいクラブに育て上げた根岸忠宏監督にお話をうかがいました。

### ここ数年で大幅にレベルアップ 関東理科大学硬式庭球連盟では毎年昇格

- 編集部** 関東大学テニス連盟は強豪校が多くて、レベルも高く、とても厳しいようですね。
- 根岸監督** はい。7部制を敷いていて1~6部は6校ずつ、そして7部にはなんと50校がひしめいています。残念ながら現在私たちが所属しているのは7部です。
- 編集部** 根岸さんが2008年に監督に就任後、徐々に成果が実り、着実にレベルアップしたとうかがっています。
- 根岸監督** 最大の目標は何といっても関東大学テニス連盟のリーグ昇格です。現在甘んじている7部では毎年8月から9月に4校(または3校)1組の予選ブロックリーグ戦を行い、その中の各1位、16校が決勝トーナメントに進出して競い合います。決勝トーナメント進出のうち上位2校、つまり準優勝以上になりますと6部下位(5位、6位)の大学と入れ替え戦を行うことができ、勝つと6部に昇格するのです。
- 編集部** 厳しい道のりですね。とはいつても3年前に10位になり、一昨年は6位、昨年も7位。この2年はベスト8に入っています。
- 根岸監督** ベスト8やベスト4を決める試合でも準優勝のチームと善戦するなど、実質はベスト5といっても過言ではありません。
- 編集部** 過去に予選ブロックで敗退していたことを考えると、大幅にレベルアップしたといえるのではないのでしょうか?
- 根岸監督** 確かにそうですね。一方で関東理科大学硬式庭球連盟にも所属しておりますが、こちらでは着実にステップアップしてきています。ここは1部4校×14部制ですが、2011年の9部から8部、7部、6部と毎年昇格して昨年の10月のリーグ戦では5部に上がることができました。この大会を終えてメンバー皆が1年間練習を積み重ねたことの実感を得られているところかもしれません。
- 編集部** ところで現在の部員数は何名でしょうか?
- 根岸監督** ここ数年は10名前後で推移してきたのですが、今年は5月23日現在で部員数は24名。学科にも偏りがなく、13学科中10学科の学生が所属しています。
- 編集部** 神奈川工科大学硬式庭球部の特徴についてお聞かせ下さい。
- 根岸監督** 何より重視しているのが技術の向上と心身の鍛錬、人格の形成に向けて努力する人材の育成です。モットーは「文武両道」。テニスの技術はもちろんですが、人間としての礼儀や思いやり、自主性、感謝の心、そしてその延長線上に目標を掲げてコツコツと努力するということの大切さを伝えていきます。もちろんテニスの練習や試合を通じて培われる仲間との友情や人間関係も重視しています。
- 編集部** 小手先の「技」だけではなく、「心」「体」も同時に培うことで、人間的な成長も視野に入れているわけですね。
- 根岸監督** はい。仲間同士が互いに励まし競争し合い、挑戦すべき目標に向かって努力を続けることで、テニス選手としてだけでなく、人間として一回りも二回りも成長するはず。最終的には社会で通用する人材になってもらうことが最大の目標です。

### 「心」「技」「体」をバランスよく鍛えることで、 一人ひとりの成長とチームの成長を!

- 編集部** ところで主将の佐川知也さん(情報工学科3年)、実際に成長できたことは何ですか?
- 佐川さん** 私は小学校1年生のころから、地元のクラブに通って、テニスをしていたのですが、最初は入部しようという気持ちは正直ありませんでした。ところが根岸監督から「一度練習を見に来ないか?」と誘われたこともあってテニスコートに足を運ぶと……。10年以上身体に刻み込まれたテニスの魅力がよみがえってきて、気がいたら入部していました(笑)。何といってもよかったのは、団体としての対応の仕方を学べたこと。監督がおっしゃるように礼儀や自主性、思いやり、感謝の心などずいぶん成長できたように感じます。
- 根岸監督** 彼は「工業及び情報」の教員免許取得も目指していて、履修科目が多くて大変なのですが、主将として練習メニューを作成したり、アドバイスをしたり。実にこまめに面倒をみてくれています。現在は出身高校のテニス部で、外部指導員として後輩たちにコーチも行っています。その経験からも硬式庭球部で学んだことは必ずや教師になっても活かしてくると思います。
- 編集部** 太田風花さん(機械工学科3年)は、入部を決めた理由は何だったのですか?
- 太田さん** 私は小学生の頃からテニスをしていましたが、テニスが好きで好きで、大学を選ぶ際にも学部・学科はもちろん、充実した硬式庭球部があるところを探しました。結果的に神奈川工科大学に入学。この選択は決して間違っていないと思っていました。練習内容はもちろん、様々な交流もあり、とても充実しています。ただ残念なのが、女子は私一人。ちょっとさびしいですが、入部したいという女子がいれば、ぜひ一緒にやりたいですね。
- 編集部** 女子部員が増えて欲しいですね。副主将の伊藤公大さん(ホームエレクトロニクス開発学科2年)、高校テニスと大学テニスの違いは何でしょうか?
- 伊藤さん** 私は3歳の頃からテニスをしてきましたが、最大の違いはおそらく体力だと思えます。高校までは1セットマッチですが、大学は2セット先取した方が勝ちの3セットマッチ。使う体力は大きく異なります。「心」「技」「体」でいえば「体」が何よりのベース。その上に心と技が磨かれるという感じでしょうか。もちろん、人間的な成長という部分も非常に大きいと実感しています。
- 編集部** なるほど。では根岸監督、今後の課題についてはいかがですか?
- 根岸監督** 繰り返しますが、関東学生テニス連盟リーグ昇格が最大の目標です。課題はまだまだ沢山ありますが、今は基礎練習と体づくり。体力や体幹、しっかりした動作を身につけ、その上で技術を磨くことで確実に成長・深化できます。ただ、週4日(1日3時間)と限られた練習時間でトレーニングやボールを多く打つだけでは到底目標は達成できません。練習の意図を理解し、考えながら取り組み、質の高い練習をすることが求められます。さらに、定例の練習だけでなく、地域の高校やジュニアチームとの合同練習、他大学との交流戦などを通じ、様々な経験や技術を学ぶことも重要と考えています。もちろん学外との交流や連携によって人間としての豊かさは確実に培っていききたいですね。こうした取り組みの中で「心」「技」「体」をバランスよく鍛えることで、一人ひとりの成長、チームへの成長に繋がるものと思っています。目標としては3年以内には昇格したいですね。

### 根岸 忠宏

神奈川工科大学教育開発センター支援室 係長  
硬式庭球部監督

「試合のように練習し、練習のように試合をする」という格言があるように、良いテニスをするには日々の練習から目標に向かってベストを尽くすことだと思います。テニスも勉強も、そして人生を豊かにするのも「ベストを尽くせるかどうか」にあるように感じます。「テニスを通じて、何事も本気で取り組める選手を育てたい。」これからもそんな思いで指導したいと思っています。



左から主将の佐川知也さん(情報工学科3年)、根岸監督、太田風花さん(機械工学科3年)、副主将の伊藤公大さん(ホームエレクトロニクス開発学科2年)

# office information

## 経営管理本部

### 総務課

#### 理事・監事・評議員の就任(重任含む)

【理事重任】高橋 正(任期:平成28年4月1日~平成32年3月31日)  
【監事重任】永井 俊行(任期:平成28年5月15日~平成32年5月14日)  
【評議員就任】3名(任期:平成28年4月1日~平成31年3月31日)  
井上 哲理(選任区分:法人職員) 清瀬 千佳子(選任区分:法人職員)  
吉森 進(選任区分:卒業生)  
【評議員重任】9名(任期:平成28年4月1日~平成31年3月31日)  
鈴木 隆(選任区分:法人職員) 中山 裕之(選任区分:卒業生)  
中野 謙一郎(選任区分:学識経験者) 関 正(選任区分:学識経験者)  
尾崎 亮典(選任区分:学識経験者) 青山 尙(選任区分:学識経験者)  
栗林 直幸(選任区分:学識経験者) 前島 一夫(選任区分:学識経験者)  
松下 亮(選任区分:学識経験者)

#### 組織変更(平成28年4月1日付け)

教職教育センター 設置 所長:磯村 恒 副学長兼務  
教職教育センター支援室 設置 事務所管:教務課  
事務システムセンター:業務委託(委託先会社:神奈川工科大学)

## 人事発令

#### (平成28年3月31日付け)

##### 【教育職員定年退職】

永尾 陽典 (工学部機械工学科 教授)  
泉川 高一 (基礎・教養教育センター 教授)  
山本 博一 (工学教育研究推進機構 教授)  
宮地 秀征 (工学部機械工学科 助教)

##### 【教育職員退職】

松月 弘恵 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 教授)  
久保 恭子 (看護学部看護学科 教授)  
千葉 大成 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 准教授)  
葛西 朱美 (看護学部看護学科 准教授)  
山口 智美 (看護学部看護学科 任期制講師)  
穴戸 路佳 (看護学部看護学科 任期制講師)  
梶並 知紀 (情報学部情報工学科 任期制助教)  
花里 陽子 (看護学部看護学科 任期制助教)

##### 【任期制助手退職】

大久保亜里沙 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 任期制助手)  
河村 彩乃 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 任期制助手)  
渡邊 啓介 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 任期制助手)  
辻 由紀 (看護学部看護学科 任期制助手)  
川下 貴士 (看護学部看護学科 任期制助手)

#### (平成28年4月1日付け)

##### 【教育職員新規採用】

谷代 一哉 (情報学部情報工学科 教授)  
井上 秀雄 (創造工学部自動車システム開発工学科 教授)  
芝山江美子 (看護学部看護学科 特任教授)  
難波 貴代 (看護学部看護学科 教授)  
伊藤 勝久 (教育開発センター 教授)  
井藤 晴久 (工学教育研究推進機構 教授)  
林 直樹 (工学部機械工学科 准教授)  
岡崎 昭仁 (創造工学部自動車システム開発工学科 准教授)  
安部 恵一 (創造工学部ホームエレクトロニクス開発工学科 准教授)  
大澤 聰子 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 准教授)  
佐藤 史緒 (教職教育センター 准教授)  
橋本真由美 (看護学部看護学科 任期制講師)  
金子 直美 (看護学部看護学科 任期制助教)

##### 【任期制助手新規採用】

白井 桃美 (応用バイオ科学部栄養生命科学科)  
杉本 悠貴 (応用バイオ科学部栄養生命科学科)  
廣瀬 奈美 (応用バイオ科学部栄養生命科学科)  
石井 千晶 (看護学部看護学科)

##### 【期間の定めのない雇用への変更】

井家 敦 (情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授)

##### 【嘱託職員新規採用】

遠藤 昭雄 (顧問)  
掛原 豊 (学生支援本部教務課 早期学生支援室)  
田島 勉 (学生支援本部教務課 早期学生支援室)  
手塚すかか (学生支援本部教務課 栄養生命科学科国家試験対策室)  
梅村 香織 (学生支援本部学生課 学生相談室)  
山本 博一 (工学教育研究推進機構 機構支援室)  
岩崎 祐也 (工学教育研究推進機構 技術支援室 高度ネットワーク教育センター)  
小林 操 (工学教育研究推進機構 技術支援室 KAIT工房)

##### 【教育職員昇任】

(准教授から教授へ昇任)  
渡邊 紳一 (工学部臨床工学科 教授)  
宮崎 潤 (情報学部情報工学科 教授)  
白竹 剛 (情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授)  
吉野 和芳 (創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 教授)  
市村 重隆 (応用バイオ科学部応用バイオ科学科 教授)  
飯島 陽子 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 教授)  
花井 美保 (応用バイオ科学部栄養生命科学科 教授)

師玉 真理 (基礎・教養教育センター 教授)  
大木 富 (基礎・教養教育センター 教授)  
(助手から助教へ昇任)  
藤井みゆき (情報教育研究センター 助教)  
(任期制講師から任期制准教授へ昇任)  
中島 正世 (看護学部看護学科 任期制准教授)  
(任期制助教から任期制准教授へ昇任)  
須藤 康裕 (情報学部情報工学科 任期制准教授)  
鈴木 浩 (情報学部情報メディア学科 任期制准教授)  
杉村 博 (創造工学部ホームエレクトロニクス開発工学科 任期制准教授)

##### 【教育職員所属変更】

西口 磯香 (情報学部情報メディア学科 教授)  
鳴海 明 (応用バイオ科学部応用バイオ科学科 教授)  
三井 和博 (基礎・教養教育センター 教授)  
藤村 陽 (基礎・教養教育センター 教授)  
佐藤 智明 (教職教育センター 教授)  
山本 聡 (教職教育センター 教授)  
山田 聡 (教職教育センター 任期制准教授)  
佐々木正孝 (情報学部情報メディア学科 助教)

##### 【事務職員配置転換】

石川 浩徳 (学生支援本部教務課長 教職教育センター支援室専任)  
貝瀬 互 (学生支援本部教務課長)

##### 【事務職員兼務】

鈴木 隆 (学生支援本部学生課長兼務)

#### (平成28年5月16日付け)

##### 【嘱託職員新規採用】

吉川 初江 (学生支援本部学生課 健康管理室 看護師)

#### (平成28年6月1日付け)

##### 【嘱託職員新規採用】

吉田有美子 (工学教育研究推進機構 技術支援室 栄養生命科学科配属)

## 管財課

### エコ活動の報告

今年度もエコ活動をスタートしました。  
◆4月26日に大学構内美化活動(芝地の除草作業、花壇やプランターへの花の苗植え等)を行い、35名の学生の皆さんが参加しました。  
◆4月26日、27日にECO推進チームみどりの学生が熊本地震義援金募金活動を実施しました。募金合計13,881円は熊本地震義援金へ振り込みました。  
◆省エネルギー対策として、5月1日からクールビズをスタートし、周知ポスターを各講義棟へ掲示しました。また冷房設定温度28度推進も実施します。  
◆5月29日には、相模川クリーンキャンペーンに参加し、河川敷の清掃をしました。清掃後は、南毛利南の水田で開催された「どろんこ」[ラーボール]での泥落とし給水ボランティア活動をECO推進チームみどりの学生約40名で実施しました。



美化活動の様子

どろんこ給水ボランティアの様子

## 学生支援本部

### 教務課

#### 今後の予定

前期授業終了、定期試験期間・追試期間、夏期休業期間、後期ガイダンス及び成績表配付の実施及び後期授業開始  
<前期授業終了> 8月1日(月)  
<前期定期試験期間> 8月2日(火)~8月6日(土)  
<前期追試期間> 9月1日(火)~9月5日(土)(日曜日除く)  
<夏期休業期間> 8月7日(日)~9月17日(日)  
<後期ガイダンス及び成績表配付> 9月20日(火)  
<後期授業開始> 9月21日(水)

## 教職教育センター

### 平成28年度 公立学校教員採用試験の受験に向けて

○6月27日(月)~7月1日(金) 直前対策講座  
7月の1次試験の合格に向けて、教職教養及び一般教養に加え、専門教科の最終チェックも行い、本番に備えます。  
○7月中 各都道府県で採用試験の実施→1次合格発表(7月下旬~8月上旬)  
○8月6日(土)・7日(日)(2日間)2次試験対策  
1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

### 平成29年度 受験に向けた対策をスタートします。

○7月4日(日) 教員採用試験対策スターティングガイダンス (全年対象)  
○9月7日(火)~9月16日(日)(8日間) 夏期集中講座の実施 (講師:東京アカデミーのスタッフ)  
大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。  
○9月16日(金) 神奈川県本年度実施問題による模試  
神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。  
○10月3日(月)~12月22日(木)(約3か月間)「後期対策講座」の実施  
前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般教養・教職教養・専門教科・論文等)をします。また、空き時間や5時限等を活用した講義や演習も検討しています。

## 学生課

### 「父母説明会・個別相談(本学)2016」の開催について

「父母説明会・個別相談(本学)2016」は次の日程で開催を予定しております。本学の支援体制のご説明やキャンパスツアー、およびクラス担任との個別相談の時間も設けております。5月に開催した新入生父母説明会、地区別父母説明会に参加できなかった皆様は是非この機会をご利用いただきご参加ください。尚、案内状の発送は8月下旬を予定しております。  
開催日:9月24日(土) 場所:神奈川工科大学

## キャリア就職課

### キャリア就職支援講座のお知らせ(6月中旬~10月下旬)

<就活フォローアップ講座>対象:学部4年、院2年  
いままでの就活を振り返り、内定をめざし、今後の活動に活かしていこう。  
第3回 6月18日(土) 10時~ / 第4回7月16日(土) 10時~  
<「魅力ある企業」研究会>対象:全学年  
~最先端技術と独自の事業でグローバル展開する知られざるB to B企業のビジネス現場に立つ~  
対象:全学年  
第5回 6月27日(月)「実践」企業訪問インタビュー」募集締め切り  
第6回 7月4日(月) 将来目指すべき分野と技術  
第7回 7月11日(月) 長野県内優良企業の紹介  
第8回 10月3日(月)(未定)  
第9回 10月24日(月)(未定)  
<「化学・バイオ・食品業界」企業研究会>対象:全学年  
食品系企業説明 6月20日(月)  
化粧品・薬品系企業説明 10月17日(月)  
<前期就活セミナー>対象:学部3年、院1年  
(各回とも同内容を二日間実施します。どちらかに参加してください)  
<第9回 SPI模擬試験> 6月22日(火)・23日(水)  
<第10回 SPI演習(前回の受験結果の振り返り)> 7月6日(火)・7日(水)  
<第11回 プロが教えるリクルートスーツの選び方及びメイクアップ講座> 7月13日(火)・14日(水)  
<後期就活セミナー>  
第1回 就活の第一歩「エントリー編」 9月27日(火)・28日(水)  
第2回 エントリーシート導入編 10月4日(火)・5日(水)  
第3回 エントリーシート対策1 10月11日(火)・12日(水)  
第4回 エントリーシート対策2 10月18日(火)・19日(水)  
第5回 SPI模擬試験(WEBSPIテスト教材配布) 10月25日(火)・26日(水)  
<SPI試験対策講座(事前申込制)>対象:学部3年、院1年  
言語能力コース、非言語能力コースを設け、それぞれ3日間の集中講座(各日とも1~4限)を開講します。  
申込期間:平成28年7月25日(月)~7月29日(金)  
【言語能力コース】同意語、反対語、ことわざ・慣用語、包含関係、行為関係、原料関係、その他の関係、語句からの意味、意味からの語句、短文の空所補充、複数の意味、文章整理、長文読解  
9月9日(金)・9月12日(月)・9月13日(火)  
【非言語能力コース】鶴亀算、濃度算、仕事算、水槽算、損益算、分割払い、金のやり取り、速さ・時間・距離、通過算、流水算、不等式、食食い算、グラフと領域、資料解釈、空間把握、n進法、順列・組み合わせ、確率、集合、推論、ブラックボックス、物の流れ、PERT法、てこ・滑車  
9月14日(水)・9月15日(木)・9月16日(金)  
<公務員試験対策講座(事前申込制)>  
9月~12月の期間に全16回(土曜日3・4・5限)で開講します。事前の説明会を7月21日(火)、7月22日(水)に行いますので、希望者はいずれかに出席してください。  
\*実施時間や教室については、KAIT Walker で配信しますので確認してください。

## 新技術を開発!カーブで速度微調整

自動車システム開発工学科 山門 誠教授

エンジンの駆動力を制御することでカーブをスムーズに走れる技術を、神奈川工科大(横浜市下区野)の山門誠教授が開発した。自動車マツダ(広島県)が採用し、今夏にも世界で初めて市販車に搭載される。ハンドルとブレーキの操作を同時にこなす必要があるカーブ走行時に、運転が苦手の人でも上手なドライバーのように走れるという。日立製作所を加えたり者による共同研究で実現した。(石本 健二)

### カーブも運転滑らか

前輪に荷重をかけた状態

滑らかなカーブ走行を実現するために、前輪に荷重をかけることで、ハンドリングが安定し、運転が滑らかになる。

### エンジン制御マツダ採用

山門教授が開発したエンジン制御技術は、マツダの最新鋭スポーツカー「ロードスター」に採用された。この技術により、カーブ走行時のエンジン出力を最適化し、運転がスムーズになる。山門教授は、この技術が市販車に採用されたことに非常に喜んでいる。

## 高速鉄道シミュレーションシステム開発が北陸新幹線等で実用化

機械工学科 田辺 誠教授

### 安全運行 北陸新幹線 開業1年 感慨深げ

北陸新幹線開業から1年。安全運行を徹底深く見つけてきた北陸新幹線には、様々な設計に活用する高速鉄道シミュレーションシステムの研究開発に長年携わった神奈川工科大教授の田辺誠さん(69)＝神奈川県厚木市。市厚木出身。その技術は昨年開業した北陸を含む各地の新幹線建設に用いられた。古里への延伸に貢献できた喜びはひときわ大きい。「安全運行を永く続けてほしい」と願っている。(東京支社編集部・土居悠平)

神奈川工科大教授 田辺さん(69)高速鉄道シミュレーション開発

### 未永く

北陸新幹線が開業して1年。安全運行を徹底深く見つけてきた北陸新幹線には、様々な設計に活用する高速鉄道シミュレーションシステムの研究開発に長年携わった神奈川工科大教授の田辺誠さん(69)＝神奈川県厚木市。市厚木出身。その技術は昨年開業した北陸を含む各地の新幹線建設に用いられた。古里への延伸に貢献できた喜びはひときわ大きい。「安全運行を永く続けてほしい」と願っている。

神奈川新聞／平成28年6月3日掲載(関連記事掲載:東京新聞・毎日新聞・東奥日報・岐阜新聞・伊勢新聞・中日新聞・千葉日報・山口新聞・四国新聞・北日本新聞／平成28年5月29日掲載、日刊工業新聞／平成28年6月2日掲載、モーターファン・イラストレーテッド／Vol.116掲載／GENROQ／2016年7月号掲載)

## 「未来に貢献」本学のさまざまな研究や施設が連載されました

「フジサンケイビジネスアイ」の「未来に貢献」の企画に本学のさまざまな研究や施設が連載で紹介されました。

- 「薬物などの送達システム実用化」応用バイオ科学科小池あゆみ教授／平成28年4月8日掲載
- 「等身大のパートナーロボット製品化へ」ロボット・メカトロニクス学科兵頭和人教授 先進技術研究所 山本圭治郎特命教授／平成28年4月15日掲載
- 「身体動作 リアルタイムに情報伝達」情報ネットワーク・コミュニケーション学科丸山 充教授／情報メディア学科小島一成准教授／平成28年4月22日掲載
- 「HEMS 企業の認証試験をサポート」ホームエレクトロニクス開発学科一色正男教授／平成28年4月29日掲載
- 「学生の夢実現を後押し KAIT工房」KAIT工房／平成28年5月13日掲載

## 秋田県大潟村「ワールドエコムーブ2016」燃料電池部門3位入賞

EVエコランカープロジェクト

秋田県大潟村で5月3日、4日に行われた「ワールドエコムーブ2016秋田大会」にEVエコランカープロジェクトが参戦し、燃料電池部門で3位に入賞しました。



秋田魁新報／平成28年5月5日掲載

## 大腸菌が合成するたんぱく質を改良 微小なカプセルを開発

応用バイオ科学科 小池 あゆみ教授

日経産業新聞／平成28年6月8日掲載

## 食育フォーラムで基調講演

栄養生命科学科 饗場 直美教授

琉球新報／平成28年4月3日掲載

## 情報番組に技術協力

情報工学科 宮崎 剛教授

情報工学科の宮崎剛教授は、研究を行っている「機械読唇技術」を用いて野球選手の会話について技術協力をを行いました。

テレビ新広島「全力応援 スポーツ LOVERS」／平成28年6月4日放送



## 中・高校生対象

# ITに関する「夢」を語る「IT夢コン」を今年も開催します!

### 「夢」を語ることを通して未来を担う若い人材の育成支援

IT夢コンテスト (IT夢コン) は、全国の中学生・高校生・高専生 (3年生以下) を対象に、IT (情報技術) で実現できる未来の社会や新たなサービスなどに関する「夢」を語ってもらうコンテストです。本コンテストを通して、中学生・高校生・高専生のITに対する理解や興味を高めるとともに、創造力・問題発見能力・コミュニケーションなどの能力開発の支援を目的とし、2011年から本学主催で開催しています。昨年は、全国から146組、315名の応募がありました。

### 本学が「IT夢コン」を主催する目的と意義

本学の教育理念は、(1)創造する力(2)豊かな人間性(3)コミュニケーション能力(4)基礎学力の4項目です。その理念の下、本学では在学している学生がこれら4項目の目標を達成できるように、学長以下教職員が協力し、各持ち場で創意工夫し、授業、研究活動、課題活動支援を行っています。

その中で、創造力、コミュニケーション能力の向上や、情報技術に対する理解を深めることを目的とするIT夢コンは、本学がこれまでの活動を通じて培ってきた教育手法や多くのノウハウを活用して、未来の社会を担う人材を育てる中学校、高等学校、高等専門学校と連携する取り組みとして、極めて有益な活動になると考えています。実際、本コンテストに参加される先生の方々から、授業、部活動の一環として、本コンテストを利用くださり、教育効果があることのご報告をいただいています。

### 今年のコンテスト

今年も昨年と同様に夢のテーマを絞りつつ、ITと社会問題の解決や未来の社会を創造していくという観点から結び付けることができるように、「ITで解決する身近な社会問題」、「ITを活かした未来のサービス」、「ITを使って〇〇を有名にする」の3つの選択テーマを設定しています。また、昨年好評を博した参加された生徒さん方の相互交流を活発化するためのポスターセッションを行い、その中から参加した生徒さん同士で選出する「ピア賞」を今年も準備しています。

最終審査として、書類選考で絞られた約30件の準決勝を行い、それを通過した10件に対して、質疑応答を含めた最終プレゼンテーションによって各賞を決定いたします。審査会は、審査員として本学教員、学生に加えて、神奈川県教育委員会の先生、情報技術に関する最先端企業の研究所の研究員、タレントの蒼あんな・れいなさんを迎え実施します。毎年、活発な質疑応答と終了後の記念撮影など、参加された生徒さん、先生の方々の心に残るものとなっています。今年も本学で7月30 (土) に開催いたします。皆様のご来場と出場者への応援をお願いいたします。詳細は、<http://kait.jp/yume/>で見ることが出来ます。  
(文責:情報工学科教授・稲葉達也)



## KAIT ERIM (女子シェアハウス) 竣工!

今年3月、KAIT ERIM (女子シェアハウス) が竣工しました。KAIT ERIM (教育研究連携モデル生活棟) は、本学女子学生 (学部生・大学院生) 専用のシェアハウス型施設です。ハウス内は8個のユニット (個室・共用シャワールーム・トイレ) に分かれており、1ユニットは6名で編成されています。食事については、授業のある平日は管理栄養士がバランスのとれたメニューを作成し、朝食を提供します。また、週末は自炊形式を実施しています。



リビング



中庭

## ホームカミングデーを開催します。

本年度も11月5日 (土) <幾徳祭初日>に、ホームカミングデーを開催します。ご家族、ご友人、先輩、後輩など、お誘いあわせのうえ、お越しください。同窓生の皆様との再会を教職員一同、楽しみにお待ちしております。



## 本学でドラマの撮影が行われました

日本テレビドラマ『お迎えデス。』が、4月23日から6月18日 (土曜日夜9時放送) まで放送され、主人公が通う大学という設定で、神奈川工科大学にて撮影が行われました。



中央緑地公園は桜の時期にも撮影が行われました。

キャンパス内でロケが行われた場所は?

吹き抜けが特徴的な廊下です。



学生サービス棟の4階は何度も登場しました。